

プログラム・抄録集

ACP

American College of Physicians
Leading Internal Medicine, Improving Lives

(米国内科学会)

日本支部

年次総会・講演会 2025

I.M.PROUD

**ジェネラリストのライフハック術
～生涯学習・WLB～大公開！**

I.M. PROUD: Let's Share Life Hacks for Generalists
～From Continuing Medical Education to Work Life Balance

2025.6.28(sat)-29(sun)

国際医療福祉大学赤坂キャンパス

現地開催

Day 1 2025.6.28(土) 9:30～17:30

Day 2 2025.6.29(日) 9:00～15:50

開催形式：現地開催（後日オンデマンド配信あり）

ACP 日本支部年次総会・講演会2025 大会長：北野 夕佳（聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院 救命救急センター）

ACP 日本支部長：矢野（五味） 晴美（国際医療福祉大学）

ACP(米国内科学会) 日本支部

年次総会・講演会 2025

I.M.PROUD

ジェネラリストのライフハック術～生涯学習・WLB～大公開！

I.M.PROUD Let's Share Life Hacks for Generalists
～ From Continuing Medical Education to Work Life Balance

プログラム・抄録集

会 期	2025年6月28日(土)・29日(日)
会 場	国際医療福祉大学 東京赤坂キャンパス 所在地: 東京都港区赤坂4丁目1-26 https://akasaka.iuhw.ac.jp/
大 会 長	北野 タ佳(聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院 救命救急センター)

1. 年次総会講演会運営委員会 Annual Meeting Organizing Committee

委員長/支部長	矢野(五味) 晴美(国際医療福祉大学)
副委員長/Public Relations 委員	大武 陽一(たけお内科クリニック からだと心の診療所)
副委員長/年次総会 SPC 担当理事	濱口 杉大(福島県立医科大学 総合内科・総合診療学講座)
委員/財務担当理事	永山 正雄(国際医療福祉大学)
委員/理事	赤井 靖宏(奈良県立医科大学 地域医療学講座)
委員/SPC 委員長	北野 タ佳(聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院 救命救急センター)
委員/SPC 次期委員長	牧石 徹也(島根大学医学部附属病院 総合診療科)
委員/監事	平和 伸仁(横浜市立大学附属市民総合医療センター 腎臓・高血圧内科)

2. 学術プログラム委員会 Scientific Program Committee

委員長	北野 夕佳(聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院 救命救急センター)
委員	香坂 俊(慶應義塾大学 循環器内科)
委員	江原 淳(東京ベイ浦安市川医療センター)
委員	金城 紀与史(沖縄県立中部病院)
委員	五十野 博基(社会医療法人石川記念会 HITO 病院 総合診療科)
委員	中野 弘康(大船中央病院)
委員	寺下 真帆(Brigham and women's hospital/聖マリアンナ医科大学)
委員	江本 賢(飯塚病院 集中治療科/総合診療科)
委員	佐々木 彰(京都大学医学部附属病院)

3. Doctor's Dilemma タスクフォース

リーダー	志水 英明(大同病院 腎臓内科)
メンバー	中野 弘康(大船中央病院)
メンバー	寺下 真帆(Brigham and women's hospital/聖マリアンナ医科大学)
メンバー	宇都宮 雅子(医療法人・社会福祉法人緑山会 グランてらす小平団地クリニック 院長)
メンバー	吉野 俊平(麻生飯塚病院)
メンバー	片岡 惇(練馬光が丘病院 総合救急診療科 集中治療部門)
メンバー	八重樫 牧人(新宿つるかめクリニック/ 医療法人徳洲会)
メンバー	猪飼 浩樹(中部労災病院 内科・総合診療科)
コメンテーター	清田 雅智(飯塚病院 総合診療科)

目次

開催概要

ご挨拶

交通のご案内

会場のご案内

プログラム表

参加者へのご案内

登壇者へのご案内

単位申請について

6月28日(土) 抄録

■第1会場(多目的ホール 301)

9:35-10:05 米国本部アンバサダー講演(英語)

10:30-11:30 総合内科 Case Discussion (英語)

11:55-12:25 multi problem 症例を general に診るとということ

12:30-13:00 病院総合診療の訓練方法

13:25-13:55 *Mycoplasma pneumoniae* 肺炎の臨床診断とマネジメント

14:00-14:30 Workplace-based Assessment で変わる臨床能力評価の未来

15:10-16:50 プレナリーセッション ジェネラリストのライフハック術～生涯学習・WLB～大公開！

17:00-17:15 支部長任期の折り返し点:ACP 日本支部 未来へのロードマップ

17:15-17:20 Rising Star Scholarship Program

17:20-17:25 Rising Star Scholarship Program

17:25-17:30 Global Physicians Scholar Program

■第3会場(講義室 304)

10:15-16:40 一般演題①～⑨ ※別途、抄録集あり

終日 ePoster 掲示

■第4会場(講義室 501)

10:30-11:30 医師がレターを書く意義

12:00-13:00 複雑化する高齢者医療に挑む！総合内科×老年医学クロストークセッション

13:30-14:30 共催セミナー① ※別途、抄録集あり

■第5会場(講義室 502)

10:30-11:30 Genespelist 白熱教室!! 「High Value Care × Genespelist」

12:00-13:00 In the Clinic ～クリニカルボトムラインレクチャー～

13:30-14:30 -Mayo Collaboration ホスピタリストと学ぶ- 内科医のためのペインマネジメント

■第6会場(講義室 503)

10:30-11:30 忙しい指導医のための外来研修医指導法

13:30-14:30 MKSAP ～必須知識を体得する米国流ショートカット!!!～

6月29日(日) 抄録

■会場1(多目的ホール 301)

9:00-10:00 最新論文20選 2025年～忙しいあなたのために～

10:20-11:20 最新論文20選 2025年～忙しいあなたのために～

11:40-12:40 共催セミナー② ※別途、抄録集あり

13:00-14:00 黒川賞 ※別途、抄録集あり

14:20-14:50 ACP アンバサダー講演

15:10-15:50 授賞式

■会場2(特大講義室 302/303)

9:40-11:20 Doctor's Dilemma 予選

13:00-14:50 Doctor's Dilemma 決勝

■第3会場(講義室 304)

終日 ePoster 掲示 ※別途、抄録集あり

■第4会場(講義室 501)

9:00-10:00 明日からの臨床に役立つ上肢 MMT の習得

10:20-11:20 遺伝医学・ゲノム医学を学びなおす

11:40-12:40 エビデンスに基づく成人の予防医療 2025年版

■第5会場(講義室 502)

9:00～10:00 医師のウェルビーイングを支える：バーンアウト対策の最新知見と実践的アプローチ

10:20～11:20 私たちの選択が未来を創る！医学生視点で考えるキャリアパスとワークライフバランスの現実

11:40～12:40 プラネタリーヘルス：臨床医学と社会医学との研究の新たな展開

■第6会場(講義室 503)

9:00-10:00 「良医の条件」～プロフェッショナリズムを実践する医師の見分け方～

10:20-11:20 アンケート調査を格上げし論文化する方法

11:40-12:40 共催セミナー③ ※別途、抄録集あり

ご挨拶



ACP 日本支部
年次総会・講演会 2025

きたの ゆか
支部長 北野 夕佳
聖マリアンナ医科大学
横浜市西部病院 救命救急センター

ACP(米国内科学会)日本支部の皆様、

この大会ホームページを見てくださっている皆様、こんにちは。

今年度も ACP(米国内科学会)日本支部年次総会・講演会 2025 を国際医療福祉大学赤坂キャンパスで現地開催できることをとてもうれしく思います。

昨年の年次総会・講演会 2024 はポスト新型コロナ時代初の現地開催となり、全国のジェネラルマインドを持った多くの参加者が赤坂の会場に集い、熱気あふれる 2 日間となりました。これだけの数の総合内科～ジェネラリスト～ジェネラルマインドを持った専門科～臨床教育者～臨床研究者がいること・つながれることを誇りに思います。

今年度の大会テーマは

I.M.PROUD

ジェネラリストのライフハック術～生涯学習・WLB～大公開！

I.M.PROUD

Let's Share Life Hacks for Generalists

～ From Continuing Medical Education to Work Life Balance

です。

ジェネラリストとしてカバーすべき医療・知識のアップデートは広範囲に及びます。ひとりでアップデートし続けようとすると膨大な時間を必要とします。この ACP 日本支部には、様々な強みを持った学会員(仲間)が多数います。知識・技能のアップデートに関しては、この ACP 日本支部というすばらしいネットワークを通じて、皆さんをサポートしたく思っております。毎年 2 日間、年次総会・講演会に参加することで知識・技能をブーストして自信をつけて自分の職場に戻っていただければ幸いです。

またそれぞれのライフステージに応じたワークライフバランス(WLB)も重要です。WLB をそもそも口にするのもはばかれる時代が過ぎ、WLB はその職場の生産性向上のための重要な要素になりつつあります。「概念」だけではなく、「実際にどうしているのか」をシェアしましょう。

2025 年次総会も、現地開催ならではのネットワーク作りの場としても活用いただきたく思っております。いままでもキャリアの道しるべとなる多くの出会いが年次総会の場で生まれています。

ACP(米国内科学会)日本支部年次総会・講演会 2025 で皆様にお会いできるのをこころから楽しみにいたしております。

The theme for this year is

I.M.PROUD

Let's Share Life Hacks for Generalists

~ From Continuing Medical Education to Work Life Balance

For generalists or physicians who have subspecialty but still proudly engage in general practice, it may sometimes feel overwhelming to keep your knowledge and skills updated in various fields of medical practice.

The two-day conference will provide many lectures, workshops and panel discussions to deliver medical knowledge and skills, which enhances your daily practice.

We also would like to share life hacks for work life balance, which is a very important part of supportive and thriving clinical environment, as well as continuing medical education in the main panel discussion.

We, the ACP Japan Chapter, would like to be an organization to provide resources and opportunities to help you keep updated and confident in your practice. Our Annual Meeting 2025 is also a wonderful opportunity to build your lifelong network with likeminded physicians.

We look forward to your participation and meeting each of you.

Yuka Kitano, M.D., FACP
Chairperson, ACP Japan Annual Conference

ご挨拶



ACP 日本支部
年次総会・講演会 2025

やの（ごみ） はるみ
支部長 矢野(五味) 晴美
国際医療福祉大学

支部長の任期 2 年目が経過しようとしております。ホップ、ステップ、ジャンプと段階的に確実に、2023-2027 年の任期中の目標の「多様性の推進」、「予防医療の推進」、「教育科学に基づいた連続性のある卒前、卒後、生涯教育の実践」を進めております。年に 1 回の ACP 日本支部の年次総会・講演会は、ACP 日本支部のプロフェッショナルとしてのあり方、提言などを体現する重要な機会と認識しております。今回、年次総会・講演会の運営財務を担当する年次総会・講演会運営委員会 Annual Meeting Organizing Committee (AMOC)を設置し、財務の安定と持続性を目標としております。また 2024 年に続き Scientific Program Committee 委員長・大会長の北野夕佳先生と協力し、総合内科の真髄を体現し、かつ学術的に質の高い多くのセッションを実現して参ります。今回のプレナリーとして、私の支部長 Class of 2027 の同期であるカナダのプレーリー州支部長の Dr. Irene Ma をお招きし、ご専門の Point of Care Ultrasounds (POCUS)に関すること、およびカナダの総合内科医の役割についてお話しいたします。多くの皆様に、東京赤坂で対面でお会いできますことを楽しみにしております。

Governor's Statement for the ACP Japan Chapter Annual Conference 2025

As I approach the third year of my term as Governor, I continue to steadily advance the goals set for the 2023-2027 term: "Promoting diversity," "Advancing evidence-based preventive medicine," and "Implementing a seamless education in undergraduate, graduate, and lifelong learning based on educational science."

The ACP Japan Chapter Annual Meeting, held once a year, is recognized as a vital opportunity to embody and propose the professional values of the ACP Japan Chapter. This year, we have established the Annual Meeting Organizing Committee (AMOC), which is responsible for the operations and finances of the Annual Meeting, aiming for financial stability and sustainability.

In collaboration with Dr. Yuka Kitano, Chair of the Scientific Program Committee, we will continue to deliver numerous high-quality, academically rich sessions that reflect the essence of general internal medicine, as we did in 2025.

For this year's plenary session, we are honored to invite Dr. Irene Ma, Governor of the Prairie Chapter in Canada and my Class of 2027 colleague, as a guest speaker. She will share her expertise on Point-of-Care Ultrasounds (POCUS) and discuss the role of general internists in Canada.

I look forward to meeting many of you in person in Akasaka, Tokyo.

Harumi Gomi, M.D., FACP
Governor, ACP Japan Chapter

A map showing the location of the International Medical University of Tokyo Akasaka Campus. The campus is marked with an orange diamond and labeled in a large orange box: 国際医療福祉大学 東京赤坂キャンパス. The map includes several landmarks and transportation routes:

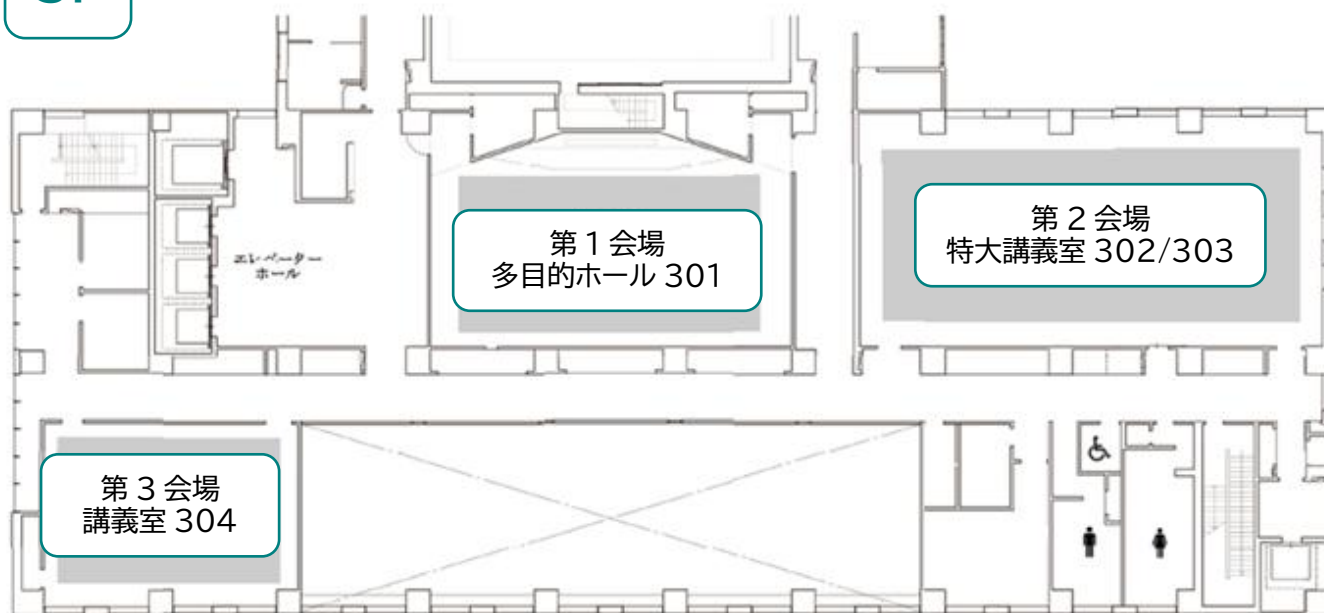
- Stations:** 永田町駅 (Nagatacho Station), 赤坂見附駅 (Akasaka Mita Station), 国会議事堂前駅 (Kokai Gijisho Mae Station), 溜池山王駅 (Roppongi Sanjo Station), and 赤坂駅 (Akasaka Station).
- Streets:** 青山通り (国道246号線) (Aoyama Dori / National Route 246), 一ツ木通り (Ikumatsu Dori), and 外堀通り (Sotomachi Dori).
- Other Landmarks:** 赤坂御用地 (Akasaka Gokokuji), ウェンディーズ (Wendy's), スターバックス (Starbucks), ロンゾン (Ronzon), ビックカメラ (Bic Camera), and 1番出入口 (Exit 1).
- Other Labels:** A 出入口 (Exit A), 歩道橋 (Pedestrian Bridge), and 2番出入口 (Exit 2).

The map illustrates the extensive Tokyo subway network. Major lines shown include the JR Central Line (orange), JR East Line (green), JR South Line (blue), and various private lines like the Yamanote Line (yellow), Chuo Line (purple), and others. Key stations marked include Shinjuku, Nishi-Shinjuku, Yamanote Line, and various lines radiating outwards. The map is labeled with station names in Japanese and English.

- 10

会場のご案内

3F



5F



※総合受付、クロークは1F にごございます

■2025年6月28日（土）第1日目プログラム表

ACP Japan Chapter Annual Meeting 2025 Saturday, June 28, 2025



オンデマンド配信予定

	第1会場 多目的ホール301(3F)	第2会場 特大講義室302/303(3F)	第3会場 講義室304(3F)	第4会場 講義室501(5F)	第5会場 講義室502(5F)	第6会場 講義室503(5F)	第7会場 講義室504(5F)
9:00							
9:10							
9:20							
9:30	9:30～9:35 (5分) Opening Remarks 北野 タ佳						
9:40	9:35～10:05 (30分) 米国本部アンバサダー講演(英語) General Internal Medicine Specialists at the Forefront of Canadian Healthcare Irene Ma 座長:矢野 (五味) 晴美、北野 タ佳						
9:50							
10:00			ePoster終日掲示				
10:10							
10:20							
10:30			10:15～11:15 (60分) 一般演題①1-9 座長:本村 小百合、 中路 幸之助				
10:40	10:30～11:30 (60分) 総合内科Case Discussion (英語) An unusual journey from the airways to the ears and the brain Kwame Dapaah-Afriyie 座長:矢野 (五味) 晴美			10:30～11:30 (60分) 医師がレターを書く意義 市塚 肇 座長:牧石 徹也	10:30～11:30 (60分) Genespelist白熱教室!! 「High Value Care × Genespelist」 (GCMEC企画) 企画:鈴木 聡	10:30～11:30 (60分) 忙しい指導医のための 外来研修医指導法 (ECPC企画) 企画:堀田 亘馬	
10:50							
11:00							
11:10							
11:20							
11:30							
11:40			11:20～12:20 (60分) 一般演題②10-18 座長:岩崎 直子、 松浦 良樹				
11:50	※11:55～13:00 ランチョンセミナー 11:55～12:25 (30分) multi problem症例をgenerallyに診る ということ (日本プライマリ・ケア連合学会共同企画) 岡田 唯男 座長:江波戸 美緒			※12:00～13:00 ランチョンセミナー			
12:00							
12:10				12:00～13:00 (60分) 複雑化する高齢者医療に 挑む！総合内科×老年医学 クロストークセッション (SPC企画) 企画:山田 悠史、吉野 俊平	12:00～13:00 (60分) In the Clinic～クリニカル ボトムラインレクチャー～ (PRC企画) 企画:官澤 洋平		
12:20	幕間(5分)						
12:30	12:30～13:00 (30分) 病院総合診療の訓練方法 (病院総合診療医学会共同企画) 志水 太郎 座長:横江 正道		12:30～13:30 (60分) 一般演題③19-27 座長:森本 勝彦、 柳川 健				
12:40							
12:50							
13:00							
13:10							
13:20							
13:30	13:25～13:55 (30分) Mycoplasma pneumoniae肺炎の臨床診断と マネジメント 清田 雅智 座長:濱田 治			13:30～14:30 (60分) ◆共催セミナー① 肺炎球菌ワクチンUp to date ～臨床医が国内の課題から 考えるワクチン戦略～ 演者:川上 健司、黒沼 幸治 座長:岡本 耕 共催:MSD株式会社	13:30～14:30 (60分) Mayo Clinic ホスピタリス トと学ぶ-内科医のための ペインマネジメント (IEPC企画) Shafay Raheel 座長:江原 淳	13:30～14:30 (60分) MKSAP～必須知識を体得する 米国流ショートカット!!!～ (MKSAP勉強会) 八重樫 牧人 座長:名嘉 祐貴	
13:40							
13:50	幕間(5分)		13:35～14:35 (60分) 一般演題④28-36 座長:牧石 徹也、 堀田 亘馬				
14:00	14:00～14:30 (30分) Workplace-based Assessmentで変わる 臨床能力評価の未来 (日本医学教育学会共同企画) 松山 泰 座長:林 幹雄						
14:10							
14:20							
14:30		14:30～15:10 (40分) FACPの集い WCのmeet the先輩集い 若手ACPの集い					
14:40							
14:50							
15:00			14:45～15:45 (60分) 一般演題⑤37-45 座長:友田 義崇、 小内 裕				
15:10							
15:20							
15:30							
15:40	15:10～16:50 (100分) プレナリーセッション ジェネラリストのライフハック術～ 生涯学習・WLB～大公開！ 座長:北野 タ佳						
15:50							
16:00			15:50～16:40 (50分) 一般演題⑥46-53 座長:吉野 鉄大、 森本 勝彦				
16:10	パネリスト: 五十野 桃子、倉澤 美和、高橋 宏瑞、 田中 幸介、山田 悠史						
16:20							
16:30							
16:40							
16:50							
17:00	17:00～17:15 (15分) 支部長講演 支部長任期の折り返し点: ACP日本支部 未来へのロードマップ 矢野 (五味) 晴美						
17:10	17:15～17:20 (5分) Rising Star Scholarship Program 石原 洋						
17:20	17:20～17:25 (5分) Rising Star Scholarship Program 稲葉 哲士						
17:30	17:25～17:30 (5分) Global Physicians Scholar program 吉野 鉄大						
18:00							
18:30	18:00～19:30 (90分) レセプション (事前予約制) ※会場は「DO-20 赤坂Bizタワー店」						
19:00							
19:30							
		委員会名	ECPC, Early Career Physicians Committee 早期キャリア委員会 RFC, Resident Fellow Committee レジデント・フェロー委員会 PWC, Physicians Wellbeing Committee ウェルビーイング委員会 SC, Student Committee 学生委員会 WC, Women's Committee 女性委員会 PRC, Public Relations Committee 広報委員会 HPPCC, Health and Public Policy Committee 健康公共政策委員会	GCMEC, Generalism-Continuing Medical Education Committee ジェネラリズム生涯教育委員会 IEPC, International Exchange Program Committee 国際交流プログラム委員会 SPC, Scientific Program Committee 年次総会講演会プログラム委員会 PMTFC, Preventive Medicine Task Force Committee 予防医療推進タスクフォース委員会 AMOC, Annual Meeting Organizing Committee 年次総会講演会運営委員会 FACP, Fellow of the American College of Physicians 上級会員			

■2025年6月29日（日）第2日目プログラム表

ACP Japan Chapter Annual Meeting 2025 Sunday, June 29, 2025



オンデマンド配信予定

	第1会場 多目的ホール301(3F)	第2会場 特大講義室302/303(3F)	第3会場 講義室304(3F)	第4会場 講義室501(5F)	第5会場 講義室502(5F)	第6会場 講義室503(5F)	第7会場 講義室504(5F)
8:50							
9:00							
9:10							
9:20	9:00～10:00（60分） 最新論文20選 2025年 ～忙しいあなたのために～			9:00～10:00（60分） 明日からの臨床に役立つ 上肢MMTの習得 (RFC企画) 杉田 陽一郎 座長:名嘉 祐貴	9:00～10:00（60分） 医師のウェルビーイングを 支える：バーンアウト対策の 最新知見と実践的アプローチ (PWC企画) 企画:鋪野 紀好	9:00～10:00（60分） 「良医の条件」 ～プロフェッショナリズムを 実践する医師の見分け方～ (HPPC企画) 企画:伊藤 公人	
9:30	平岡 栄治						
9:40							
9:50							
10:00							
10:10							
10:20		9:40～ Doctor's Dilemma予選 座長:志水 英明					
10:30							
10:40	10:20～11:20（60分） 最新論文20選 2025年 ～忙しいあなたのために～			10:20～11:20（60分） 遺伝医学・ゲノム医学を 学びなおす (WC企画) 渡辺 淳 座長:岩崎 直子	10:20～11:20（60分） 私たちの選択が未来を創る！ 医学生視点で考える キャリアパスとワークライフ バランスの現実 (SC企画) 企画:金本 昌大	10:20～11:20（60分） アンケート調査を格上げし 論文化する方法 (Research企画) 大前 憲史 座長:濱口 杉大	
10:50	平岡 栄治						
11:00							
11:10							
11:20							
11:30	※11:40～12:40 ランチョンセミナー				※11:40～12:40 ランチョンセミナー		
11:40							
11:50	11:40～12:40（60分） ◆共催セミナー② 中小病院の魅力を再発見する ーコミュニティホスピタルという新しい価値ー		ePoster掲示 休憩スペース	11:40～12:40（60分） エビデンスに基づく 成人の予防医療2025年版 (PMTFC企画) 企画:八重樫 牧人	11:40～12:40（60分） プラネタリーヘルス： 臨床医学と社会医学との研究の 新たな展開 (社会医学系専門医協会共同企画) 橋爪 真弘、今中 雄一、梶 有貴 座長：和田 裕雄	11:40～12:40（60分） ◆共催セミナー③ AIを武器に！次世代内科医の 未来戦略 演者:Louise Chang, 野木 真将、鋪野 紀好 座長:飯村 傑 共催:エルゼビア・ジャパン 株式会社	
12:00	演者:大杉 泰弘 座長:安藤 聡一郎 共催:セイエイ・エル・サnteホールディング 株式会社						
12:10							
12:20							
12:30							
12:40							
12:50							
13:00							
13:10							
13:20	13:00～14:00（60分） 黒川貴 座長:牧石 徹也、筒泉 貴彦、中川 麗						
13:30							
13:40							
13:50		13:00～ Doctor's Dilemma決勝 座長:志水 英明					
14:00							
14:10							
14:20	14:20～14:50（30分） ACPアンバサダー講演(英語) Beyond the Stethoscope: Power and Pitfalls of Point-of-care Ultrasound in Internal Medicine Irene Ma 座長:永山 正雄、矢野（五味）晴美						
14:30							
14:40							
14:50							
15:00							
15:10	15:10～15:50（40分） 黒川貴授賞式 各賞授賞式 座長:前田 賢司、北野 夕佳						
15:20							
15:30							
15:40	Closing Comment 北野 夕佳						
15:50							
16:00							

委員会名	ECPC, Early Career Physicians Committee 早期キャリア委員会	GCMEC, Generalism-Continuing Medical Education Committee ジェネラリズム生涯教育委員会
	RFC, Resident Fellow Committee レジデント・フェロー委員会	IEPC, International Exchange Program Committee 国際交流プログラム委員会
	PWC, Physicians Wellbeing Committee ウェルビーイング委員会	SPC, Scientific Program Committee 年次総会講演会プログラム委員会
	SC, Student Committee 学生委員会	PMTFC, Preventive Medicine Task Force Committee 予防医療推進タスクフォース委員会
	WC, Women's Committee 女性委員会	AMOC, Annual Meeting Organizing Committee 年次総会講演会運営委員会
	PRC, Public Relations Committee 広報委員会	FACP, Fellow of the American College of Physicians 上級会員
	HPPC, Health and Public Policy Committee 健康公共政策委員会	

■Program Schedule – Day 1 (Saturday, June 28, 2025)

ACP Japan Chapter Annual Meeting 2025



Available On-demand

	Room 1 Hall 301 (3F)	Room 2 Hall 302/303 (3F)	Room 3 Hall 304 (3F)	Room 4 Hall 501 (5F)	Room 5 Hall 502 (5F)	Room 6 Hall 503 (5F)	Room 7 Hall 504 (5F)
9:00							
9:10							
9:20							
9:30	9:30~9:35 (5min) Opening Remarks Yuka Kitano						
9:35	9:35~10:05 (30min) Ambassador Lecture from U.S.Headquarters (English)						
9:40	General Internal Medicine Specialists at the Forefront of Canadian Healthcare Sperker: Irene Ma						
9:50	Chair: Harumi Gomi, Yuka Kitano						
10:00							
10:10							
10:20							
10:30			10:15~11:15 (60min) e-Poster Session ① No.1-9 Chair: Sayuri Motomura, Kounosuke Nakaji				
10:40	10:30~11:30 (60min) GIM Case Discussion: An unusual journey from the airways to the ears and the brain (English)			10:30~11:30 (60min) Significance of letter writing for physicians Speaker: Hajime Ichiseki Chair: Tetsuya Makiishi	10:30~11:30 (60min) Genespelist Exciting Class!! — Rethinking High-Value Care with a Genespelist Mindset— (GCMEC session) Satoshi Suzuki	10:30~11:30 (60min) Practical Approaches to Outpatient Resident Training for Busy Supervising Physicians (ECPJC session) Koma Hotta	
10:50	Speaker: Kwame Dapaah-Afryie Chair: Harumi Gomi						
11:00							
11:10							
11:20							
11:30			11:20~12:20 (60min) e-Poster Session ② No.10-18 Chair: Naoko Iwasaki, Yoshiki Matsuura				
11:40							
11:50	※11:55~13:00 Lunch Seminar			※12:00~13:00 ランチョンセミナー			
12:00	11:55~12:25 (30min) Three simple rules when taking care of patients with multi-problems (JPCA-ACPJC Joint Session) Speaker:Tadao Okada Chair: Mio Ebato						
12:10				12:00~13:00 (60min) Complexity Unraveled: General Internal Medicine x Geriatrics Cross-Talk (SPC session) Yuji Yamada, Shunpei Yoshino			
12:20							
12:30							
12:40	12:30~13:00 (30min) Developing expertise in Japanese hospital medicine (JSHGM-ACPJC Joint Session) Speaker:Taro Shimizu Chair:Masamichi Yokoe		12:30~13:30 (60min) e-Poster Session ③ No.19-27 Chair: Katsuhiko Morimoto, Takeshi Yanagawa		12:00~13:00 (60min) Lecture with Clinical Bottom Line in the "In The Clinic" (PRC session) Yohei Kanzawa		
12:50							
13:00							
13:10							
13:20							
13:30	13:25~13:55 (30分) Clinical diagnosis and management of <i>Mycoplasma pneumoniae</i> pneumonia Speaker:Masatomo Kiyota Chair:Osamu Hamada			13:30~14:30 (60min) ◆Sponsored Seminar ① Selection of adult pneumococcal vaccine based on the serotype distribution in Japan Elderly pneumococcal vaccination of National immunization program (NIP) and Private - The problem in the 11th year after starting of NIP Speaker:Kenji Kawakami, Koji Kuronuma Chair:Koh Okamoto Co-sponsored by MSD	13:30~14:30 (60min) Acute pain management in hospitalized patients. -Lessons from the Mayo Clinic hospitalist- (IEPC session) Speaker: Shafay Raheel Chair: Jun Ehara	13:30~14:30 (60min) MKSAP -An American shortcut to obtain necessary knowledge!!!- Speaker: Makito Yaegashi Chair:Yuki Naka	
13:40							
13:50							
14:00	14:00~14:30 (30min) Assessing clinical competence through workplace- based assessment (JSME-ACPJC Joint Session) Speaker:Yasushi Matsuyama Chair: Mikio Hayashi		13:35~14:35 (60min) e-Poster Session ④ No.28-36 Chair: Tatsuya Makiishi, Koma Hotta				
14:10							
14:20							
14:30		14:30~15:10 (40min) FACP Gathering Meet the Mentors (Women's committee) Young ACP Members' Gathering					
14:40							
14:50							
15:00				14:45~15:45 (60min) e-Poster Session ⑤ No.37-45 Chair: Yoshitaka Tomoda, Kouchi Yu			
15:10							
15:20	15:10~16:50 (100min) Plenary Session I.M. PROUD: Let's Shae Life Hacks for Generalists - From Continuing Medical Education to Work Life Balance - Chair : Yuka Kitano						
15:30							
15:40							
15:50							
16:00	Panelists : Momoko Isono						
16:10	Miwa Kurasawa						
16:20	Hiromizu Takahashi						
16:30	Kousuke Tanaka Yuji Yamada						
16:40							
16:50							
17:00	17:00~17:15 (15min) Halfway Through My Term – Roadmap to the Future of ACP Japan Chapter Harumi Gomi						
17:10	17:15~17:20 (5分) Rising Star Scholarship Program Yo Ishihara						
17:20	17:20~17:25 (5分) Rising Star Scholarship Program Satoshi Inaba						
17:30	17:25~17:30 (5分) Global Physicians Scholar program Tetsuhiro Yoshino						

18:00	
18:30	18:00~19:30 (90min) Reception (Pre-registration Required)
19:00	※Venue: DO-ZO Akasaka Biz Tower
19:30	

ACP Japan Committees	
ECPC, Early Career Physicians Committee	GCMEC, Generalism-Continuing Medical Education Committee
RFC, Resident Fellow Committee	IEPC, International Exchange Program Committee
PWC, Physicians Wellbeing Committee	SPC, Scientific Program Committee
SC, Student Committee	PMTFC, Preventive Medicine Task Force Committee
WC, Women' s Committee	AMOC, Annual Meeting Organizing Committee
PRC, Public Relations Committee	FACP, Fellow of the American College of Physicians
HPPC, Health and Public Policy Committee	

■Program Schedule – Day 2 (Sunday, June 29, 2025)

ACP Japan Chapter Annual Meeting 2025

Available On-demand

	Room 1 Hall 301 (3F)	Room 2 Hall 302/303 (3F)	Room 3 Hall 304 (3F)	Room 4 Hall 501 (5F)	Room 5 Hall 502 (5F)	Room 6 Hall 503 (5F)	Room 7 Hall 504 (5F)
8:50							
9:00							
9:10							
9:20	9:00~10:00 (60min) Internal Medicine Update: the important 20 articles in 2024 and 2025 ① Eiji Hiraoka			9:00~10:00 (60min) Mastering upper limb MMT for daily clinical practice (RFC Session) Yoichiro Sugita Chair: Yuki Naka	9:00~10:00 (60min) Supporting physician well-being: Latest evidence and practical approaches for burnout prevention (PWC Session) Kiyoshi Shikino	9:00~10:00 (60min) Definition of a Good Doctor - How to identify a doctor who engage in occupation as a doctor with "professionalism in medicine" (HPPC Session) Masato Ito	
9:30							
9:40							
9:50							
10:00							
10:10							
10:20		9:40~ Doctor's Dilemma - Preliminary Round Hideaki Shimizu		10:20~11:20 (60min) Recurrent learning for genetic medicine and genomic medicine (WC Session) Atsushi Watanabe Chair: Naoko Iwasaki	10:20~11:20 (60min) Crafting Our Own Paths: Career Choices and Work-Life Balance (SC Session) Masahiro Kanamoto	10:20~11:20 (60min) How to Enhance and Publish Questionnaire-Based Research (Research Session) Kenji Omae Chair: Sugihiko Hamaguchi	
10:30							
10:40	10:20~11:20 (60min) Internal Medicine Update: the important 20 articles in 2024 and 2025 ② Eiji Hiraoka						
10:50							
11:00							
11:10							
11:20							
11:30	※11:40~12:40 Lunch Seminar				※11:40~12:40 luncheon seminar		
11:40							
11:50	11:40~12:40 (60min) ◆Sponsored Seminar ② Rediscovering Community Hospital: New Value in Small Hospitals Speaker: Yasuhiro Osugi Chair: Soichiro Ando Co-sponsored by Seiei Ailes Sante Holding Ltd			11:40~12:40 (60min) Evidence-based preventive medicine for adults in 2025 (PMTFC Session) Makito Yaegashi	11:40~12:40 (60min) Planetary Health: New Frontiers in Research Across Clinical and Social Medicine (JBPH-ACPJC Joint Session) Masahiro Hashizume, Yuichi Imanaka Yuki Kaj Chair : Hiroo Wada	11:40~12:40 (60min) ◆Sponsored Seminar ③ Master the AI Game: Unlock Your Greatness as the Internist of the Future Speaker: Louise Chang, Masayuki Nogi, Kiyoshi Shikino Chair : Takeshi Iimura Co-sponsored by Elsevier Japan	
12:00							
12:10							
12:20							
12:30							
12:40							
12:50							
13:00							
13:10							
13:20	13:00~14:00 (60min) Kurokawa Award Competition (English) Chair: Tetsuya Makiishi, Takahiko Tsutsumi,Urara Nakagawa	13:00~ Doctor's Dilemma - Final Round Hideaki Shimizu					
13:30							
13:40							
13:50							
14:00							
14:10							
14:20	14:20~14:50 (30min) Ambassador Lecture from U.S.Headquarters (English) Beyond the Stethoscope: Power and Pitfalls of Point-of-care Ultrasound in Internal Medicine Irene Ma Chair: Masao Nagayama, Harumi Gomi						
14:30							
14:40							
14:50							
15:00							
15:10	15:10~15:50 (40min) Awards Ceremony Chair: Kenji Maeda, Yuka Kitano						
15:20							
15:30	Closing Remarks Yuka Kitano						
15:40							
15:50							
16:00							

ACP Japan Committees	
ECPC, Early Career Physicians Committee	GCMEC, Generalism-Continuing Medical Education Committee
RFC, Resident Fellow Committee	IEPC, International Exchange Program Committee
PWC, Physicians Wellbeing Committee	SPC, Scientific Program Committee
SC, Student Committee	PMTFC, Preventive Medicine Task Force Committee
WC, Women's Committee	AMOC, Annual Meeting Organizing Committee
PRC, Public Relations Committee	FACP, Fellow of the American College of Physicians
HPPC, Health and Public Policy Committee	

参加者へのご案内

◆参加登録期間

- *早期登録:2025年4月1日(火)～5月19日(月)23時59分まで
 - *通常登録:2025年5月20日(火)～6月26日(木)23時59分まで
 - *当日登録:2025年6月27日(金)～6月29日(日)15時まで(クレジットカード決済のみ)
 - *レセプション・ランチョン登録:2025年4月1日(火)～6月20日(金)23時59分まで
- ※全てオンライン参加登録のみ、当日現地にて参加登録受付はございません

◆会員

種別	早期登録期間 (4/1～5/19)	通常登録期間 (5/20～6/26)	当日登録期間 (6/27～6/29)	スポンサーシップ
一般	¥20,000	¥22,000	¥25,000	¥10,000
初期、後期研修医、 コメディカルアフィリエイト	¥18,000	¥20,000	¥22,000	¥10,000
学生、会員の学生ボランティア	¥0	¥0	¥0	—

※ACP 学生会員の年会費は無料のため、学会にご入会いただくことで無料にて参加できます

入会申請はこちら: <https://www.acpjapan.org/admission/application/>

※スポンサーシップ制度は、ACP 学生会員への旅費サポート制度です

詳細はこちら: <https://www.acpjapan.org/acp2025/sponsorship.html>

◆非会員

種別	早期登録期間 (4/1～5/19)	通常登録期間 (5/20～6/26)	当日登録期間 (6/27～6/29)	スポンサーシップ
一般	¥23,000	¥25,000	¥27,000	¥10,000
初期、後期研修医、 コメディカルアフィリエイト	¥21,000	¥23,000	¥25,000	¥10,000
学生	¥3,000	¥4,000	¥5,000	—
非会員の学生ボランティア	¥0	¥0	¥0	—

◆レセプション・ランチョンセミナー

(4/1～6/20)	レセプション(懇親会)	ランチョン1日目(お弁当)	ランチョン2日目(お弁当)
共通	¥4,000	¥1,300	¥1,300

※レセプション(懇親会)は6月28日(土)18時～19時30分「DO-ZO 赤坂 Biz タワー店」で開催予定です

※ランチョン未申込の方でもお席に空きがある場合、セミナーに参加いただけます(お弁当の配布はございません)

※会員参加費は不課税、非会員参加費は消費税込み(課税)です

※ランチョン費用、レセプション費用については会員・非会員ともに、消費税込み(課税)です

※ACP 日本支部は営利目的の運営ではないため、インボイス(適格請求書)発行事業者の登録は行っておりません

オンデマンド配信

一部セッションは、下記の日程でオンデマンド配信を予定しています。

* 年次総会にご参加の非会員の方: 2025 年 8 月 1 日(金)～2025 年 9 月 30 日(火)予定

* 年次総会にご参加の会員の方: 2025 年 8 月 1 日(金)～2026 年 6 月 30 日(火)予定

* 年次総会に不参加の会員の方: 2025 年 10 月 1 日(木)～2026 年 6 月 30 日(火)予定

登録方法

- 参加登録・オプション登録は、Peatix システムを利用しています。
Peatix のご利用が初めての方は、[Peatix の会員登録](#)をお願いいたします。
Peatix についてご不明な点がありましたら、[こちら](#)をご確認ください。
- 参加登録・オプション登録は、それぞれでご入金いただき、ご入金の確認をもって登録完了となります。
期日までにご入金が確認できない場合やオプション登録のみで参加登録が確認できない場合は、登録取消となりますのでご注意ください。
- 領収書は、参加登録確定後、Peatix より発行いただけます。発行方法は[こちら](#)をご確認ください。
なお、ACP 日本支部は営利目的の運営ではないため、インボイス(適格請求書)発行事業者の登録は行っておりません。
- ご入金後のキャンセルや返金はできかねますのでご了承ください。

★参加登録はこちらから



<https://acpjc2025.peatix.com/>

★オプション登録はこちらから

- ・レセプション(懇親会)
- ・昼食のお弁当



<https://acpjc2025option.peatix.com/>

支払方法

- クレジットカード決済(VISA/Master/JCB/AMEX 他)
 - コンビニ/ATM(手数料¥220)
- ※当日登録期間はクレジットカード決済のみです

抄録集について

WEB 抄録となり、冊子での販売・郵送はございません。

現地参加をされる皆様へ

皆様に安心してご参加いただくため、基本的な感染症対策にご理解とご協力をお願いいたします。
服装はクールビズを奨励しておりますので軽装でご来場ください。
運営スタッフもクールビズに取り組みますのでご理解のほど、お願いいたします。

当日の受付方法について

- 参加登録が確定した方に、ご案内メールを 6 月 23 日以降に順次お送りいたしますので、**ネームカードをご自身で印刷・記名いただき、当日会場までご持参ください。**
- ネームカードは会場設置のネームホルダーに入れて会期中は必ずご着用ください。
受付不要で各会場にお進みいただけますが、ご都合のよい時間帯に 1F 総合受付にて必ず来場登録を行ってください。来場登録は両日参加の方でも会期中に 1 回となり、2 日間それぞれの登録は不要です。
- 来場登録は、Peatix の電子チケット画面をご自身で印刷もしくはスマートフォンなど表示いただきます。
- 当日、ネームカードや入場券を忘れた方・紛失された方や印刷できないなどございましたら、1F 総合受付にお越しください。

場所	6 月 28 日(土)	6 月 29 日(日)
1F 総合受付	9 時～17 時	8 時 50 分～15 時

※Peatix の電子チケットについて

- ・[Peatix アプリでチケットを確認する場合\(iOS\)](#)
- ・[Peatix アプリでチケットを確認する場合\(Android\)](#)
- ・[パソコンやスマートフォンのブラウザなどでチケットを確認する場合](#)

ランチョンセミナーについて

- 参加登録とオプション登録が確定した方に、ご案内メールを 6 月 23 日以降に順次お送りいたしますので、**入場券をご自身で印刷・記名いただき、各セミナー会場前でお弁当と引き換えに回収いたします。**
- 入場券をお持ちでない方は、お席に空きがある場合、セミナーに参加いただけますがお弁当の配布はございません。

※当日、入場券を忘れた方・紛失された方や印刷できないなどございましたら、1F 総合受付にお越しください

レセプション(懇親会)について

日時	会場
6 月 28 日(土)18 時～19 時 30 分	DO-ZO 赤坂 Biz タワー店

- 参加登録とオプション登録が確定した方に、ご案内メールを 6 月 23 日以降に順次お送りいたしますので、**入場券をご自身で印刷・記名いただき、会場前で回収いたします。**
- 当日は開始時間に間に合うよう、各自で会場までお越しください。
事前予約制となりますので、入場券をお持ちでない方は参加いただけません。
※当日、入場券を忘れた方・紛失された方や印刷できないなどございましたら、6 月 28 日 17 時までに 1F 総合受付にお越しください。

クロークについて

- 荷物は当日中にお引き取りをお願いいたします。
- 貴重品はお預かりすることができません。

場所	6月28日(土)	6月29日(日)
1F クローク	9時～17時50分	8時50分～16時20分

参加証明書について

参加登録が確定した方に、ご案内メールを6月23日以降に順次お送りいたしますので、ご自身で印刷いただけます。

※領収書は、参加登録確定後、Peatixより発行いただけます。発行方法は[こちら](#)をご確認ください。なお、ACP日本支部は営利目的の運営ではないため、インボイス(適格請求書)発行事業者の登録は行っておりません

スタンプラリーについて

- 会期中、スタンプを5つ全て集めた方に景品をお渡しいたします。
- スタンプを5つ全て集めた方は、台紙を1階総合受付までお持ちください。

※景品は先着50名、なくなり次第、終了いたします

スタンプラリー場所	
第3会場 講義室 304	一般演題、ePoster
第7会場 講義室 503	企業展示3ブース、書籍展示

その他のご案内

- 会期中は必ずネームカードをネームホルダーに入れてご着用ください。
- 講演会場での写真撮影、録音やビデオ撮影を固く禁止します。
- 各自で持ち込まれた物のゴミは各自でお持ち帰りくださいますようお願いいたします。
- 会場に参加者用のWi-Fi接続サービスはございません。

登壇者へのご案内

座長の皆様へ

- 座長受付は設けておりませんので、ご自身のセッション開始 10 分前に会場の「次座長席」にご着席ください。
- 司会・進行係など設けておりませんので、進行は座長の先生にご一任させていただきます。
- 時間厳守をお願いしたく、セッション全体の終了時間に対し、終了 3 分前の掲示をさせていただきます。
- 一般演題は発表 4 分、質疑応答 2 分の合計 6 分で進行をお願いいたします。
- 黒川賞は発表 5 分、質疑応答 3 分の合計 8 分で進行をお願いいたします。

指定演題(一般演題、黒川賞以外)ご発表の皆様へ

◆ご発表スライドの作成・事前提出について

- 当日、PC センターはございませんので、事前提出をお願いいたします。
- Microsoft PowerPoint2010 以上での作成・保存をお願いいたします。
(1 枚目タイトル、2 枚目 COI スライド)
- ファイル名は「講演日時_名前.pptx」としてください。英数字は半角です。
(例:06281200_山田花子.pptx)
- フォントは文字化けを防ぐため、Windows 標準フォントをご使用ください。
- 発表データに静止画やグラフ等のデータをリンクさせている場合は、必ず元データを一緒に保存していただき、事前に動作確認をお願いいたします。
- 静止画は JPEG 形式での作成を推奨いたします。
- 期限内であれば、何度でもデータの差し替え・修正ができますので都度アップロードしてください。最後にアップロードいただいたデータを使用いたします。
- 期限以降や当日会場での差し替えがありましたら運営事務局まで必ずご連絡ください。

★提出期限:2025 年 6 月 25 日(水)正午まで

アップロード:<https://www.dropbox.com/request/4yqDPeDRiR5WxXwqnLyC>

※PC お持ち込みの場合でも、アップロードをお願いいたします

◆会場でのご発表について

- 演台 PC (Windows10 以降)のデスクトップにあるセッション名フォルダより、事前提出済みのご自身のスライドを開いてご発表ください。
- 発表受付はございませんので、ご自身のセッション開始 10 分前に会場の「次演者席」にご着席ください。
- 当日の進行は座長にご一任しておりますので指示に従ってください。
- 動画が含まれる場合、発表者ツールを利用される場合、MacPC をご利用の場合は、ご自身の PC をお持ち込みください。
- 会場オペレーターはおりませんので、ご自身でプロジェクターとの接続を行ってください。
- 接続コネクタは HDMI 端子となります。変換が必要な場合は変換ケーブル等ご持参ください。

- PCのスリープ機能、スクリーンセーバーや省電力機能などは予め解除してください。
- ご発表中に運営スタッフによる写真撮影を行う場合がございますことご了承くださいませ。
- 会場にネット環境(有線 LAN・Wi-Fi)はございませんのでご了承くださいませ。

一般演題、ePoster(デジタルポスター)ご発表の皆様へ

◆ePoster(デジタルポスター)作成要項・事前提出について

- 作成言語は英語です。
- 通常のポスターサイズ(H180cm×W90cm)で作成し PDF 形式に変換後、下記よりご提出ください。
※Microsoft PowerPoint でサイズが指定できない場合は 1/2 サイズの作成で問題ありません
- ポスター上部に発表番号、演題名、演者名、所属(共同演者含む)を必ず入れてください。
- PDF のファイル名は「発表番号.pdf(例:P-1.pdf)」としてください。英数字は半角です。
- 動画、画面切り替えアニメーション、ページ内アニメーションは使用できません。
- 期限内であれば、何度でもデータの差し替え・修正ができますので都度アップロードしてください。最後にアップロードいただいたデータを使用いたします。
- 期限以降や当日会場での差し替え・修正はできません。

★提出期限:2025 年 6 月 23 日(月)正午まで

アップロード:<https://www.dropbox.com/request/VMTqLze4KJSZpI5x7Lgv>

◆会場でのご発表について

- 演台 PC(Windows10)のデスクトップにあるセッション名フォルダ(例:一般演題①)より、事前提出済みのご自身の PDF を開いてご発表ください。
- PDF の拡大・縮小・スクロール機能を利用しご発表ください。発表者ツールは使用できません。
- 発表受付はございませんので、ご自身のセッション開始 10 分前に会場の「次演者席」にご着席ください。
- 口頭発表 4 分・質疑応答 2 分の合計 6 分でお願いいたします。
- 当日の進行は座長にご一任しておりますので指示に従ってください。
- ご発表中に運営スタッフによる写真撮影を行う場合がございますことご了承くださいませ。

黒川賞候補演題ご発表の皆様へ

◆ご発表スライドの作成・事前提出について

- Microsoft PowerPoint2010 以上でスライド 12 枚の作成をお願いいたします。
(1 枚目タイトル、2 枚目 COI、3 枚～12 枚目発表スライド)
- ファイル名は「発表番号.pptx(例:K-1.pptx)」としてください。英数字は半角です。
- フォントは文字化けを防ぐため、Windows 標準フォントをご使用ください。
- 発表データに静止画やグラフ等のデータをリンクさせている場合は、必ず元データを一緒に保存していただき、事前に動作確認をお願いいたします。
- 静止画は JPEG 形式での作成を推奨いたします。

- 期限内であれば、何度でもデータの差し替え・修正ができますので都度アップロードしてください。最後にアップロードいただいたデータを使用いたします。
- 期限以降や当日会場での差し替え・修正はできません。

★**提出期限:2025 年 6 月 23 日(月)正午まで**

アップロード:<https://www.dropbox.com/request/DRMpLDMYHTLywPIC6okt>

◆**会場でのご発表について**

- 演台 PC(Windows10)のデスクトップにあるセッション名フォルダ(例:黒川賞)より、事前提出済みのご自身のスライドを開いてご発表ください。
- 発表受付はございませんので、ご自身のセッション開始 10 分前に会場の「次演者席」にご着席ください。
- 口頭発表 5 分・質疑応答 3 分の合計 8 分、【英語】でのご対応をお願いいたします。
- 当日の進行は座長にご一任しておりますので指示に従ってください。
- 動画が含まれる場合や MacPC をご利用の場合はご自身の PC をお持ち込みください。
- 会場オペレーターはおりませんので、ご自身でプロジェクターとの接続を行ってください。
- 接続コネクタは HDMI 端子となります。変換が必要な場合は変換ケーブル等ご持参ください。
- PC のスリープ機能、スクリーンセーバーや省電力機能などは予め解除してください。
- ご発表中に運営スタッフによる写真撮影を行う場合がございますことご了承くださいませ。
- 全ての発表終了後、審査を行います。結果は授賞式で発表されます。

単位申請について

単位認定・受講証明書の発行について

※単位付与の対象は現地参加のみとなります。(オンデマンド配信視聴は対象外です。)

※申請の必要な単位を希望される場合は、申請フォームから申込ください。

1. 日本医師会生涯教育

ACP 日本支部年次総会 2025 では、東京都医師会より、セッション毎に下記の生涯教育単位が付与されます。

※セッション終了後に QR コードが表示されます。URL にアクセスし、受講完了登録をお願いいたします。

後日 ACP 日本支部年次総会 2025 運営事務局よりメールにて参加証(PDF)をお送りいたします。

※事前申請は不要です。

※後日の問い合わせは対応できかねますので、予めご了承ください。

◆日本医師会 生涯教育制度 単位申請できる対象セッション

①6/28(土) 9:35~10:05 第1会場(多目的ホール 301)

米国本部アンバサダー講演

(General Internal Medicine Specialists at the Forefront of Canadian Healthcare)

カリキュラムコード:0(最新のトピックス・その他)

単位:0.5

②6/28(土) 10:30~11:30 第6会場(講義室 503)

忙しい指導医のための外来研修医指導法(ECPC 企画)

カリキュラムコード:7(医療の質と安全)

単位:1.0

③6/28(土) 11:55~12:25 第1会場(多目的ホール 301)

multi problem 症例を general に診るということ(日本プライマリ・ケア連合学会共同企画)

カリキュラムコード:15(臨床問題解決のプロセス)

単位:0.5

④6/28(土) 12:30~13:00 第1会場(多目的ホール 301)

病院総合診療の訓練方法(病院総合診療医学会共同企画)

カリキュラムコード:15(臨床問題解決のプロセス)

単位:0.5

⑤6/28(土) 13:30～14:30 第4会場(講義室 501)

共催セミナー① 肺炎球菌ワクチン Up to date ～臨床医が国内の課題から考えるワクチン戦略～

共催:MSD 株式会社

カリキュラムコード:11(予防と保健)

単位:1.0

⑥6/28(土) 15:10～16:50 第1会場(多目的ホール 301)

プレナリーセッション

ジェネラリストのライフハック術～生涯学習・WLB～大公開！

カリキュラムコード:1(医師のプロフェッショナリズム)

単位:1.5

⑦6/29(日) 9:00～10:00 第5会場(講義室 502)

医師のウェルビーイングを支える:バーンアウト対策の最新知見と実践的アプローチ(PWC 企画)

カリキュラムコード:1(医師のプロフェッショナリズム)

単位:1.0

⑧6/29(日) 10:20～11:20 第1会場(多目的ホール 301)

最新論文 20 選 2025 年 ～忙しいあなたのために～

カリキュラムコード:15(臨床問題解決のプロセス)

単位:1.0

⑨6/29(日) 11:40～12:40 第1会場(多目的ホール 301)

共催セミナー② 中小病院の魅力を再発見するーコミュニティホスピタルという新しい価値ー

共催:セイエイ・エル・サンテホールディングス株式会社

カリキュラムコード:12(地域医療)

単位:1.0

⑩6/29(日) 14:20～14:50 第1会場(多目的ホール 301)

ACP アンバサダー講演

(Beyond the Stethoscope: Power and Pitfalls of Point-of-care Ultrasound in Internal Medicine)

カリキュラムコード:0(最新のトピックス・その他)

単位:0.5

2.日本臨床疫学会(日本臨床疫学会 登録会員のみ)

本年次総会へご参加いただくと日本臨床疫学会単位 3 単位が取得できます。

※必須事項を申請フォームにご記入の上、ご申請ください。

単位については後日、日本臨床疫学会よりご連絡があります。

3.日本プライマリ・ケア連合学会

①専門医や認定医の生涯学習

本年次総会へご参加いただくと日本プライマリ・ケア連合学会 生涯教育の単位 5 単位が取得できます。

※必須事項を申請フォームにご記入の上、ご申請ください。

単位については後日、日本プライマリ・ケア連合学会よりご連絡があります。

②Off-JT単位

大会当日、対象セッションの講演終了後、視聴画面に申請フォームのURLが 1 分間表示されます。

その場でアクセスし、ご自身で単位申請を行ってください。

日本プライマリ・ケア連合学会のマイページへのログインが必要となりますので、あらかじめお手元にログイン情報をご用意ください。

※事前の申請は不要です。

※単位付与の対象は現地参加のみとなります。(オンデマンド配信視聴は対象外です。)

※後日の問い合わせは対応できかねますので、予めご了承ください。

◆日本プライマリ・ケア連合学会 Off-JT 単位申請できる対象セッション

①6/28(土) 9:35~10:05 第1会場(多目的ホール 301)

米国本部アンバサダー講演

(General Internal Medicine Specialists at the Forefront of Canadian Healthcare)

Off-JT 領域:臨床

単位:0.5

②6/28(土) 10:30~11:30 第5会場(講義室 502)

Genespelist 白熱教室!!「High Value Care × Genespelist」(GCMEC 企画)

Off-JT 領域:臨床

単位:1

③6/28(土) 12:00~13:00 第4会場(講義室 501)

複雑化する高齢者医療に挑む! 総合内科×老年医学クロストークセッション(SPC 企画)

Off-JT 領域:臨床

単位:1

④6/28(土) 13:25~13:55 第1会場(多目的ホール 301)

Mycoplasma pneumoniae 肺炎の臨床診断とマネジメント

Off-JT 領域:臨床

単位:1

⑤6/28(土) 15:10～16:50 第1会場(多目的ホール 301)

プレナリーセッション

ジェネラリストのライフハック術～生涯学習・WLB～大公開！

Off-JT 領域:臨床

単位:1.5

⑥6/29(日) 9:00～10:00 第1会場(多目的ホール 301)

最新論文 20 選 2025 年 ～忙しいあなたのために～

Off-JT 領域:臨床

単位:1

⑦6/29(日) 10:20～11:20 第6会場(講義室 503)

アンケート調査を格上げし論文化する方法(Reserch 企画)

Off-JT 領域:研究

単位:1

⑧6/29(日) 11:40～12:40 第4会場(講義室 501)

エビデンスに基づく成人の予防医療 2025 年版(PMTFC 企画)

Off-JT 領域:臨床

単位:1

⑨6/29(日) 14:20～14:50 第1会場(多目的ホール 301)

ACP アンバサダー講演

(Beyond the Stethoscope: Power and Pitfalls of Point-of-care Ultrasound in Internal Medicine)

Off-JT 領域:臨床

単位:0.5

◆Off-JT 申請手順

- I. 各セッション終了時に提示された URL にアクセスしてください。
- II. ログインが求められますので、会員番号とマイページのパスワードでログインしてください。

 **LIVE配信** **単位申請フォーム** ログイン画面

マイページログイン

会員番号

パスワード

ログイン

- III. ログインすると、セミナー情報、マイページ登録情報が自動入力されていますので、内容を確認し、「送信する」ボタンを押してください。

 **LIVE配信** **単位申請フォーム** ログイン画面

セミナー名	
セッション名	
開催日時	
会員番号	
名前	
所属	
メールアドレス	

送信する

- IV. 「申請が完了しました」と表示されたら、申請完了です。

 **LIVE配信** **単位申請フォーム**

申請が完了しました

日本臨床疫学会、日本プライマリ・ケア連合学会(専門医・認定医の生涯学習単位)の単位希望者は、こちらから
ご申請ください。

単位申請フォーム: <https://forms.gle/uKDMmdQunNqW57kn7>

単位申請期間: 2025年7月15日(火)まで



6 月 28 日(土) 抄録

米国本部アンバサダー講演

General Internal Medicine Specialists
at the Forefront of Canadian Healthcare



Irene Ma, MD, PhD, FRCPC, FACP, FAIUM

Division of General Internal Medicine, Department of Medicine,
University of Calgary Cumming School of Medicine

Dr. Irene Ma is the Governor of Prairies Provinces Chapter of American College of Physicians. As a Professor of Medicine and the John A. Buchanan research chair holder at the University of Calgary, Dr. Ma practices general internal medicine, with a research focus in medical education, procedural skills, and point-of-care ultrasound (POCUS). Dr. Ma completed a 1-year Emergency Ultrasound Fellowship at Massachusetts General Hospital in Boston. Dr. Ma has a MSc in Epidemiology from Stanford University and a PhD in Medical Education from the University of Calgary. Dr. Ma serves on the executive board at the American Institute of Ultrasound in Medicine as Third Vice President and is an Executive Member and Associate Director of the Royal College of Physicians and Surgeons of Canada Internal Medicine Examination Board.

As societal demands continue to grow in response to an aging population and the increasing prevalence of patients with multi-system comorbidities and complex chronic conditions, the need for highly skilled generalist physicians became increasingly evident. Against this backdrop, the role of general internal medicine (GIM) has emerged as a cornerstone of healthcare delivery in Canada.

This presentation explores the historical evolution of GIM as a distinct specialty, tracing its development in response to shifting societal needs and health system pressures. GIM competencies and training pathways will be discussed. Through a case-based approach, the role that GIM specialists play in bridging care gaps, providing comprehensive care particularly in the inpatient and the perioperative settings will be highlighted. Strengths and limitations of the current Canadian model will also be explored. This presentation aims to provoke thoughtful discussion about how best to support and optimize care in patients with complex care needs in the current era of medicine.

総合内科 Case Discussion

An unusual journey from the airways to the ears and the brain

Kwame Dapaah-Afriyie. MD.MBA. FACP,FRCP(London),SFHM

Professor of Medicine – Alpert Medical School of Brown University

Rhode Island, USA



Kwame Dapaah-Afriyie is an Inpatient Internal Medicine Physician (Hospitalist) and Director of the Division of Hospital Medicine at Miriam hospital in Rhode Island. He has been named as one of the State of Rhode Island's Top Doctors annually for over a decade. He and his colleagues at The Miriam Hospital are Academic hospitalists affiliated with Alpert Medical School of Brown University. A member of the 2009 inaugural class of Fellows in Hospital Medicine, he is now a Senior Fellow of the Society of Hospital Medicine.

He is one of the founding editors of the Brown Hospital Medicine e-journal.

He is the current Governor of RI Chapter of American College of Physicians(ACP), and Vice-Chair of ACP Chapters sub-committee. He serves as a member of the Item Writing Task Force of the American Board of Internal Medicine.

22-year-old man with benign past medical history presented to the emergency department for evaluation with a 2-day history of double vision and jaw tightness. Two weeks prior to his presentation he developed nasal congestion and a mild cough which resolved spontaneously but his course was followed by bilateral ear pain and hearing impairment for which he was started on Amoxicillin for management of bilateral otitis media. He developed the presenting symptoms after being on the antibiotics for about 4 days. He also complained about vomiting, headache and neck pain.

He had no abdominal pain, diarrhea, weakness or numbness in his extremities.

Family history: unremarkable.

Social history: no illicit drug use.

Examination: lethargic with a temperature of 96.7°F. Heart rate: 92/min, Blood pressure 118 / 53 mmHg, respiratory rate of 18/min. Oxygen saturation of 98% of room air.

Not pale, anicteric. No conjunctival injection noted. No nystagmus. He had a medially deviated right eye with impaired abduction. No cervical lymphadenopathy. Intermittent visible bilateral spasms of masseter muscles with restricted jaw movements noted.

Normal chest, cardiac and abdominal exam findings.

CNS: Neck-supple. Normal muscle in extremities. Deep tendon reflexes- present and normal. No sensory deficits noted.

SKIN: No rash noted.

Lab data: WBC of 15.6 with 87% neutrophils. Hemoglobin of 13.7 with a platelet count of 286,000. Sodium 141, potassium 3.7, Chloride 109, bicarbonate 19 with a BUN of 12 and creatinine 1.03 glucose of 102, calcium 9.1.

Chest X-ray: No infiltrates or effusions.

Differential diagnosis and additional work-up?

multi-problem 症例を general に診るとということ

Three simple rules when taking care of patients
with multi-problems



岡田 唯男

鉄蕉会 亀田ファミリークリニック館山

Tadao Okada

Tessyoukai Kameda Family Clinic Tatetama

背景：

高齢化が進むなか、複数の疾患や社会的背景が絡み合う Multi-problem (MP) 症例が増加している。従来の multimorbidity (MM) では捉えきれない複雑さを持つこれらの症例への対応は、臓器別アプローチだけでは限界がある。

目的：

本講演では、MP 症例に対する診療の視点を整理し、臨床現場で実践可能な対応の枠組みを提示する。

方法：

文献レビューと仮想症例を用い、MP 状態の定義と臨床上の複雑度の捉え方を踏まえたうえで、現場で遭遇する実際の困難とその整理法について検討した。

結果：

MP 症例における診療の混乱や判断困難は、複雑性の誤認や情報の断片化に起因することが多い。本講演ではその混乱を解きほぐすための3つの視点を提示し、それぞれに具体例を交えて紹介する。

結論：

MP 症例への対応は、単に疾患の数や重症度では語れない。複雑な状況を整理し、全体としての最適解を導くためには、ある種の“見方の転換”が求められる。その鍵となる3つの原則について、講演で共有したい。

Background:

As populations age, clinicians increasingly encounter multi-problem (MP) cases—patients whose health issues extend beyond physical diseases to include psychological and social dimensions. These cases often surpass the scope of traditional multimorbidity (MM) frameworks, presenting unique challenges in practice.

Objective:

This presentation aims to reframe the clinical approach to MP cases by introducing a practical structure that supports real-world decision-making, especially in primary and general internal medicine.

Methods:

Drawing on literature and a hypothetical case study, we explore how MP cases differ from standard multimorbidity, and how complexity can obscure priorities and impede care. Through a conceptual and case-based analysis, we examine how clinicians can avoid common pitfalls.

Results:

The chaos and ambiguity of MP cases often stem from fragmented views and inadequate frameworks. In this presentation, we offer three practical principles that help untangle this complexity—without oversimplifying it—and illustrate them through realistic scenarios encountered in outpatient care.

Conclusion:

Managing MP cases requires more than clinical guidelines; it calls for a shift in mindset. The keys to better care may lie not in adding more treatments, but in seeing patients through a different lens. We invite you to join the session and explore these perspectives in depth.

Saturday, June 28, 2025 12:30-13:00

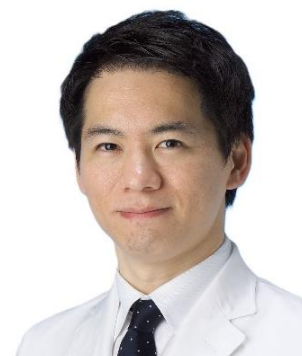
第Ⅰ会場(多目的ホール 301)

病院総合診療の訓練方法

Developing expertise in Japanese hospital medicine

志水 太郎

獨協医科大学総合診療医学



Taro Shimizu, MD, FACP

Department of Diagnostic and Generalist Medicine, Dokkyo Medical University

本講演では日本の病院総合診療に必要な要素を検討す中のモデルケースの一つとして、獨協医科大学総合診療医学講座の取り組みをとりあげる。同講座では、多疾患・多臓器併存に対応する総合診療医の育成を目的に、完全屋根瓦式の指導体制、直視下の分厚いフィードバック、診断学を中心とした体系的な臨床カリキュラムを整備している。また、大学病院と市中病院の双方を活用した多様な臨床セッティングを通じて、柔軟かつ現実的な診療力を養成する。感染症領域の強化、病歴・フィジカル重視の教育、高い心理的安全性を伴う職場環境、さらに学会発表や論文執筆への手厚い支援体制により、臨床力とアカデミズムの両立が図られている。本講演では、同講座の実践例を通じて、今後の病院総合診療教育に求められる要素とその実装について考察する。

This presentation examines the essential components of hospital general medicine in Japan. As a model case, I introduce the educational system of the Department of Diagnostic and Generalist Medicine at Dokkyo Medical University. In response to the increasing complexity of multimorbidity and multi-organ involvement, our program emphasizes the cultivation of both a cross-sectional, comprehensive clinical perspective and decisive action. The department has established a fully layered, hierarchical supervision system, ensuring rich, direct feedback in real-time clinical settings. Our structured curriculum, centered on diagnostic reasoning, includes intensive bedside training in history-taking and physical examination, with a strong foundation in infectious disease management.

One of our unique strengths lies in offering parallel training across both university and community hospitals, enhancing adaptability and breadth of clinical exposure. Furthermore, our robust academic support system encourages residents to participate in conference presentations and manuscript writing, fostering the integration of clinical practice and scholarly activity. The department also prioritizes psychological safety and well-being, providing a professional environment with healthy work-life balance.

By highlighting this comprehensive and practical approach, I propose a potential model for training the next generation of hospital-based generalists in Japan.

Mycoplasma pneumoniae

肺炎の臨床診断とマネジメント

Clinical diagnosis and management of *Mycoplasma pneumoniae* pneumonia

清田 雅智

飯塚病院 総合診療科



Masatomo Kiyota

General Internal Medicine, ASO IIZUKA HOSPITAL.

2024 年はマイコプラズマ感染症が国内の過去の統計上最多の年であった。迅速キットの欠乏から、この病気の臨床診断の重要性を認識する年でもあった。小児例が多かったはずだが、成人にも抗菌薬に不応性の肺炎がしばしば紹介されてきた。マクロライド耐性菌の増加が物議を醸しており、抗菌薬の使用については学会からの緊急提言が示された。個人的には抗菌薬の使用法はあまり変えず、他の薬剤を使用することで、肺炎の管理は困ることはなかった。また、流行時期特有の現象である、普段診ないような症例を経験することができた。様々な検査を受けて原因がわからない不明熱として紹介されたが、病歴と肺外症状から、迅速診断に至った症例を報告する。

Mycoplasma pneumoniae の臨床経過から、検査結果を凌駕する臨床診断を行うことの重要性と、抗菌薬だけではない適切なマネージを、今回の流行の機会に振り返ってみたい。

In 2024, *Mycoplasma* infections reached a record high in Japan. Due to a shortage of rapid diagnostic kits, the importance of clinical diagnosis came into sharper focus. While most cases were in children, adults with pneumonia unresponsive to antibiotics were also frequently referred. The rise of macrolide-resistant strains became a major concern, leading to urgent recommendations from Japanese Medical Societies regarding appropriate antibiotic use.

Personally, I did not significantly change my antibiotic choices. By using alternative medications, I was able to manage pneumonia cases without major difficulty. As is often seen during epidemics, I encountered rare and unusual cases. One patient was referred as a case of fever of unknown origin after extensive testing. However, based on the patient's history and extrapulmonary symptoms, a clinical diagnosis of *Mycoplasma pneumoniae* was made without delay.

This outbreak reminded me of the importance of clinical judgment that goes beyond lab results, and of managing infections not only through antibiotics but with a broader, more thoughtful approach.

Workplace-based assessment で変わる 臨床能力評価の未来

Assessing clinical competence through workplace-based assessment

松山 泰

自治医科大学・医学教育センター



Yasushi Matsuyama

Jichi Medical University・Medical Education Center

情報科学技術や診療機器の進歩、医療ニーズの多様化により、医師に求められる能力は、単なる知識や技能にとどまらず、倫理的視点のもとで先端技術を適切に活用する力や、地域特性に応じた多職種連携能力など、より複合的なものへと変化している。日本医学教育評価機構（JACME）の分野別認証評価や文部科学省のモデル・コア・カリキュラムは「新たな医師像」にふさわしい資質・能力、すなわち「コンピテンシー」の育成を全国の医学部に求めている。

こうした複合的なコンピテンシーの育成には、臨床現場（workplace）での経験が不可欠である。たとえば、倫理的視点のもとで先端技術を活用する力を養うには、生成 AI が提示した治療法を受け持ち患者に適用すべきかどうか、学修者と医療スタッフとで検討する場が重要である。Workplace-based assessment（WpBA）では場における学修者を観察し、プロフェッショナリズム、科学的探究心、情報活用能力などを多面的に評価する。

これらの評価結果は点数や順位といった従来の指標ではしばしば表しにくい。標準化を重視しすぎず、学修者個々の状況に応じた成長を促すフィードバックを重視する姿勢が重要である。一方で、教育プログラムには修了判定のための合否基準が必要であり、その設定にあたっては「不合格と判断すべき学修者像」に着目した議論と「再教育の方策」との両面からの検討が求められる。近年注目される Entrustable Professional Activities（EPA）は、この観点から極めて示唆に富む概念である。

WpBA の実効性を担保するには、指導者（評価者）の確保に加え、その意識と行動の変容が不可欠である。一方、現場では「教育疲れ」や「評価疲れ」といった課題も顕在化しており、それらに向き合いながら持続可能な推進を提案したい。

Advances in information and medical technology, along with increasingly diverse medical needs, have enlarged the scope of competencies expected of physicians. Both the Japan Accreditation Council for Medical Education and the MEXT's Model Core Curriculum emphasize fostering competencies aligning with the "new image of the physician". Developing multifaceted competencies requires authentic clinical experience. For instance, regarding ethical use of cutting-edge technologies, learners require opportunities to engage with healthcare professionals to discuss whether a generative AI-proposed patient treatment plan should be applied in practice. Competency development is evaluated by Workplace-

based assessment (WpBA), where multiple dimensions of learner professionalism, scientific inquiry, and information literacy are observed in real clinical settings. As such assessments are difficult to validate through traditional metrics like test scores or class rankings, feedback promoting individual learner growth should be prioritized over rigid standardization. Simultaneously, educational programs still require clear criteria to determine successful completion, and the Entrustable Professional Activities (EPA) framework offers valuable guidance. Effective WpBA demands assessors' development, so clinical settings are increasingly faced with the dual challenges of training fatigue and assessment fatigue. This talk aims to explore and propose sustainable implementation strategies to overcome these challenges.

Saturday, June 28, 2025 15:10-16:50

第1会場(多目的ホール 301)

プレナリーセッション ジェネラリストのライフハック術 ～生涯学習・WLB～大公開！

I.M. PROUD: Let's Share Life Hacks for Generalists
～From Continuing Medical Education to Work Life Balance



北野 タ佳

聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院 救命救急センター

Yuka Kitano, MD, FACP

St. Marianna University, Yokohama Seibu Hospital

山田 悠史

マウントサイナイ医科大学
老年医学・緩和医療科



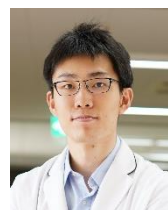
高橋 宏瑞

順天堂大学
総合診療科



田中 幸介

京都大学大学院 医学研究科
リアルワールドデータ研究開発講座



五十野 桃子

HITO 病院
総合診療科



倉澤 美和

西吾妻福祉病院
内科



Yuji Yamada

Brookdale Department of Geriatrics and
Palliative Medicine, Icahn School of Medicine at Mount Sinai

Hiromizu Takahashi

Juntendo University Faculty of Medicine, Department of General Medicine

Kosuke Tanaka

Department of Real World Data R&D,
Graduate School of Medicine, Kyoto University

Momoko Isono

HITO Medical Center, General internal medicine

Miwa Kurasawa

Nishi-Agatsuma Welfare Hospital

ACP 日本支部および年次総会・講演会のプレナリーセッションのページへようこそ。ご覧いただきありがとうございます。

とても好評だった一昨年の「キャリアプランニング」、昨年の「常にアップデートし続けるために」のパネルディスカッションに続き、今年度は「ジェネラリストのライフハック術～生涯学習・WLB～大公開！」をテーマに掲げました。

総合内科・ジェネラリストとして診療されている先生方、専門領域を持ちつつジェネラリストとしての能力を維持したいと考えている先生方いずれにとりましても「ジェネラリストとしての広い診療領域の生涯学習」と、ご自身および組織の若手も含めての「ワークライフバランスをどう維持するか」は重要な課題だと思います。ここにさらに「地域貢献」や「臨床研究」が入る先生もおられるかもしれません。

なかなか聞くことのできないそれぞれのパネリストのライフハック術を、惜しみなくシェアしていただく予定です。パネルディスカッションの中から、参加者の皆様それぞれが取り入れたいと思う「ライフハック」を持ち帰っていただければ嬉しいです。

Welcome to the ACP Japan Chapter Annual Meeting Plenary Panel Discussion.

Thank you for visiting the page for the plenary panel discussion of the ACP Japan Chapter Annual Meeting 2025.

Following the success of our previous panel discussions—"Career Planning" two years ago and "Staying Up-to-Date" last year—this year's theme is:

"I.M. PROUD: Let's Share Life Hacks for Generalists ~From Continuing Medical Education"

Whether you are a general internist practicing comprehensive care or a specialist striving to maintain generalist skills, this session is designed to address two key challenges:

- How to engage in lifelong learning across a broad clinical spectrum
- How to sustain work-life balance for yourself and for the younger generation within your organization

Some participants may also be involved in community engagement or clinical research, adding further complexity to their professional lives.

In this session, each panelist will generously share their unique life hacks—practical strategies that are often not discussed openly. We hope every attendee will take away at least one actionable idea to incorporate into their own practice and life.

支部長任期の折り返し点： ACP 日本支部 未来へのロードマップ

Halfway Through My Term – Roadmap to the Future of ACP Japan Chapter

矢野（五味） 晴美

国際医療福祉大学 国際医療者教育学・感染症学



Harumi Gomi, MD, FACP

International University of Health and Welfare, Department of International Health Professions Education and Center for Infectious Diseases

2023年4月に支部長に就任し、さまざまな取り組みを行なって参りましたが、2025年6月現在で任期が半終了し折り返し地点となりました。本講演では、これまでの活動を振り返り、米国内科学会との更なる連携、国内学会との連携を強め、日本における総合内科の展望を日本支部の未来へのロードマップとしてお示しします。活動の3本柱である、多様性の推進、エビデンスに基づいた予防医療の推進、教育科学に基づいた一貫性のある卒前、卒後、生涯教育の推進について述べます。多様性の推進では、理事会メンバーは男女ほぼ半数ずつの体制で運営しております。エビデンスに基づいた予防医療の推進では、予防医学推進タスクフォース委員会が2023年1月に発足し、日本支部から予防医療に関する有益な情報を公開する準備をしております。総合内科のキャリア支援につき、Rising Star Scholarship Programを開始し、2025年4月には2期生2名が渡航し合計4名が修了しております。また年次総会講演会の準備体制では、財務・運営を担当する年次総会講演会運営委員会(Annual Meeting Organizing Committee)を発足させ、これまでのプログラム委員会 (Scientific Program Committee)は学術プログラムに特化した委員会として活動していただくこととしました。さらに日本プライマリ・ケア連合学会、日本病院総合診療医学会、日本医学教育学会、社会医学系専門医協会、日本NP学会との公式な学術連携が開始されました。国際内科学会 ISIM とも対話や連携ができる体制となりました。今後は日本内科学会と米国内科学会の連携について橋渡しのような活動を考えております。今後、未来に向けて日本支部がさらに発展できるための基盤づくりを行い、次にバトンを渡したいと考えております。

Since becoming Governor in April 2023, I have worked on multiple initiatives. As of June 2025, I have reached the halfway point of my term. In this talk, I will reflect on our progress and outline a roadmap for the future of general internal medicine in Japan, through stronger ties with ACP and Japanese academic societies.

Our focus is on three pillars:

Diversity – Our board has balanced gender and age representation, including early-career doctors and residents.

Evidence-based preventive care – We launched Preventive Medicine Task Force Committee in January 2023 to promote and share reliable preventive health information.

Education across all stages – From undergraduate to lifelong learning, we promote consistent, science-based education.

We started the Rising Star Scholarship Program, with four scholars trained abroad by April 2025. For our annual meeting, we launched the Annual Meeting Organizing Committee (AMOC) to oversee operations, while the Scientific Program Committee (SPC) now focuses solely on academic content.

We have established academic partnerships with major Japanese societies and strengthened ties with the International Society of Internal Medicine (ISIM). We plan to serve as a bridge between ACP and the Japanese Society of Internal Medicine.

My goal is to lay a strong foundation—including financial reforms and legal updates—for the future of the Japan Chapter.

Thank you for your continued support.

Rising Star Scholarship Program in 2025

Rising Star Scholarship Program in 2025



石原 洋

国際医療福祉大学成田病院

Yo Ishihara

Department of Palliative Medicine, International University of Health and Welfare Narita Hospital

【はじめに】

Rising Star Scholarship Program は 2023 年に開始された ACP 日本支部の総合内科キャリア支援奨学金制度である。この制度により海外渡航した医師はこれまでに 2 人しかおらず、経験の蓄積と広報が必要とされている。今回、本制度により米国ニューオーリンズで開催された ACP 総会に参加し、カナダ・フットヒルズメディカルセンターでポイントオブケア超音波（POCUS）の見学を経験したため報告する。

【方法】

Rising Star Scholarship Program に応募し採択され、同伴者の稲葉医師とともに計画をたて渡航した。

【結果】

米国 ACP 総会には pre-course（事前セミナー）から参加し、身体診察から銃火器事故まで総合的に学び、多くの学会スタッフ、国内外のベテラン参加者の先生方と情報交換ができた。カナダでは POCUS の基礎から丁寧にご指導頂き、POCUS の最新エビデンスに触れることができた。

【結論】

同制度に関わられた先輩方へ心から感謝を申し上げる。Rising Star Scholarship Program と通し、総合内科キャリアにおける中～長期的目標の輪郭が明瞭化した。今後も同制度を通して多くの経験の蓄積と交流を希望する。

Introduction

The Rising Star Scholarship Program is a career support scholarship system for general internal medicine established by the ACP Japan Chapter in 2023. To date, only two physicians have traveled abroad through this program, highlighting the need for further accumulation of experiences and increased promotion. Herein, we report our participation in the ACP Annual Meeting held in New Orleans, United States, and our observational experience of point-of-care ultrasound (POCUS) at the Foothills Medical Centre in Canada, made possible through this program.

Methods

After applying for and being selected for the Rising Star Scholarship Program, we, together with Dr. Inaba, developed a travel plan and proceeded with the trip.

Results

At the ACP Annual Meeting in the United States, we participated from the pre-course sessions, gaining comprehensive knowledge ranging from physical examination to firearm injury management, and engaged in valuable exchanges of information with many conference staff members and experienced participants. In Canada, we received thorough instruction on the fundamentals of POCUS and studied the latest evidence related to its clinical application.

Conclusion

I would like to express our heartfelt gratitude to the mentors and predecessors involved in this program. Through the Rising Star Scholarship Program, the medium- to long-term goals of our careers in general internal medicine have become more clearly defined. I hope that the program will continue to foster the accumulation of experiences and exchanges among future participants.

Rising Star Scholarship Program 参加報告

Rising Star Scholarship Program

稲葉 哲士

市立福知山市民病院 総合内科 / 京都府立医科大学 総合医療・地域医療学



Satoshi Inaba

Department of General Internal Medicine, Fukuchiyama City Hospital / Department of General Medicine & Community Healthcare, Kyoto Prefectural University of Medicine

2025 年度 Rising Star Scholarship に選出され、ACP Internal Medicine Meeting 2025 (New Orleans) および University of Calgary POCUS team での observership (Calgary) に参加する 2 週間の海外研修の機会を得た。ACP には Precourse を含め 5 日間参加し、Precourse では糖尿病・老年医学に関する講義を受講した。Internal Medicine Meeting 本会では、緩和ケア、臨床推論、医学教育、カンナビノイドなど幅広い話題に触れ、また学会自体の規模に圧倒された。懇親会では普段お会いすることのない先生方との交流の機会を頂き、診療や英語学習への刺激を頂いた。Calgary では Irene Ma 先生率いる POCUS チームの下、肺・心エコー、IVC/JVP 評価、エコーガイド下穿刺等を見学し、総合内科や家庭医療における POCUS の汎用性と教育的意義を再認識した。英語力の課題を痛感しつつも、日本の Generalism を発展させていくことへの決意を新たにし、今後の臨床・教育活動への意欲を強めた。そのような 2 週間の貴重な経験について報告する。

I was honored to be selected as a 2025 Rising Star Scholarship awardee and had the opportunity to participate in a two-week international training program, including attendance at the ACP Internal Medicine Meeting 2025 in New Orleans and an observership with the POCUS team at the University of Calgary. I attended the ACP meeting for five days, including the precourse sessions on diabetes and geriatric medicine. During the main conference, I explored a wide range of topics including palliative care, clinical reasoning, medical education, and cannabinoids, and was impressed by the scale of the event. The networking events offered valuable opportunities to connect with physicians I would not normally meet, which inspired me in both clinical practice and English language learning. In Calgary, I observed the POCUS consultation team led by Dr. Irene Ma and was involved in a variety of procedures, such as lung and cardiac ultrasound, IVC/JVP evaluation, and ultrasound-guided paracentesis. This experience reaffirmed the versatility and educational value of POCUS in general internal and family medicine. Although I recognized the need to improve my English skills, this experience renewed my determination to further develop generalism in Japan and strengthened my motivation for clinical and educational activities. This report summarizes this valuable two-week experience.

Saturday, June 28, 2025 17:25-17:30

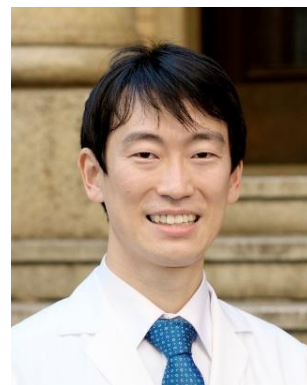
第Ⅰ会場(多目的ホール 301)

Global Physicians Scholar Program

Global Physicians Scholar program

吉野 鉄大

慶應義塾大学医学部漢方医学センター



Tetsuhiro Yoshino, MD, FACP

Center for Kampo Medicine, Keio University School of Medicine

ACP Global Physician Scholar (GPS) Program は、世界各国の若手・中堅内科医若干名が選抜され、米国内のさまざまな医療機関での1カ月間の研修・見学を通じて、米国の内科診療の実際を体験する国際交流プログラムです。今年はアラブ首長国連邦、ナイジェリア、ソマリランド、スリランカ、そして矢野先生はじめ多くの先生方のご指導ご支援のおかげで日本から私の、合計5名が選抜され、4月に開催されたニューオリンズでのACP本部の年次総会に合わせて米国入りしました。私は年次総会に先立って3月に、ミネソタ州ミネアポリスを拠点に研修を行いました。

研修の中心は統合医療を専門とする自由診療の Minnesota Personalized Medicine で、多領域の慢性疾患に対しアプローチする診療所を見学しました。加えて、公的病院での統合医療を用いた集団療法への参加と家庭医療レジデントへの講演の機会もいただきました。診療録の共有による透明性、医療費や保険制度の違いなど、日本との対比で多くの気づきをえた一方で、日米の内科診療における共通の課題として、高度に専門分化した医師同士の間に「隙間」が存在すること、軽度の精神疾患を抱えているけれども身体症状として内科などを受診している方が多いこと、十分な時間を確保して患者の語りを聴くことの治療効果、様々な治療モダリティに注目するだけでなく食生活や運動習慣生活全般も含めた患者の理解に治療の糸口を見出しうることも再認識しました。

統合医療の見学に加えて、病院救急外来での診療アシスタントやホスピタリスト業務など、日本では経験できない地域医療の最前線の見学、ACP本部の年次総会での発言の機会などをいただくことができました。こうした様々な経験を通して得た学びを、プログラムの紹介を交えながらご報告します。

The ACP Global Physician Scholar (GPS) Program is an international exchange initiative that selects a small number of early- to mid-career internists from around the world to participate in a one-month observational program at medical institutions across the United States or Canada. This year, five scholars were selected—from the United Arab Emirates, Nigeria, Somaliland, Sri Lanka, and myself from Japan—thanks to the generous guidance and support of many mentors, especially Governor Dr. Gomi. We gathered at the ACP's annual meeting in New Orleans.

My primary placement was at Minnesota Personalized Medicine, a self-pay clinic specializing in integrative medicine, where I observed a holistic, patient-centered approach to managing complex, multisystem chronic conditions. I also had the opportunity to observe integrative group therapy sessions at a public hospital, and to give a presentation to family medicine residents.

These experiences offered valuable insights into the contrasts between the U.S. and Japan—particularly regarding transparent, shared clinical documentation, differences in healthcare costs, and insurance systems. At the same time, I found similarities: the importance of filling the “gaps” between specialties, the frequency of patients presenting with physical symptoms rooted in mild psychiatric conditions, and the critical role of in-depth patient interviews and understanding patients’ daily lives in clinical care.

In addition, I had the opportunity to observe frontline care in emergency departments and hospitalist services.

医師がレターを書く意義

Significance of letter writing for physicians

市堰 肇

ジャパンケアコンサルタンツ

Hajime Ichiseki, MD, FACP

Japan Care Consultants



読者による査読の場として知られている医学誌のレターセクションには、より多様な役割がある。その中でも是非知ってほしいのは、一般臨床医、開業医、医学生が自分の意見や提言を発信する場としての活用である。

本企画では、①医学誌のレターについて知っておくべきこと、②なぜレターを書くべきなのか、③レターのアクセプト率を高めるライティングテクニックについて説明する。本企画を通してトップジャーナルを含めた医学誌のレターセクションにアクセプトされるコツが習得できる。また、近年急速に進化している生成AIを使用した論文作成における注意にも触れる。

The letter section of a medical journal, known as a place for peer review by readers, has a more diverse role. Among them, I would like you to know that general clinicians, medical practitioners, and medical students can use it as a forum for the dissemination of their opinions and recommendations.

This project will explain (1) what you need to know about medical journal letters, (2) why you should write them, and (3) writing techniques to increase the acceptance rate of your letters. Through this project, you will learn tips on how to get your letter accepted in the letter section of medical journals, including top journals. It will also touch on the cautions of generative AI, which has been rapidly evolving in recent years.

複雑化する高齢者医療に挑む！

総合内科×老年医学クロストークセッション

Complexity Unraveled: General Internal Medicine × Geriatrics Cross-Talk

吉野 俊平

飯塚病院 集中治療科

Shunpei Yoshino

Department of Intensive Care Medicine, Aso Iizuka Hospital



山田 悠史

マウントサイナイ医科大学老年医学・緩和医療科

Yuji Yamada

Brookdale Department of Geriatrics and

Palliative Medicine, Icahn School of Medicine at Mount Sinai



日本の高齢化率は世界1位であり、今後も上昇を続けると考えられている。2025年には5人に1人が75歳以上になると見込まれている。2023年度の厚生労働省の患者調査では入院患者の半数以上が75歳以上である。平均寿命が伸びる一方で、日常生活に制限のない健康寿命が伸び悩んでいる。疾患および機能障害を抱えた高齢者が増加しており、今後これまで以上に、その多様なニーズや複雑な病態に対応する能力、老年医学の考え方が医療の現場で求められている。一方卒前教育から初期研修・専門研修においても老年医学を体系的に学ぶ機会は非常に限定されている。急性期入院患者診療において高齢者を見るうえで大切なことはなにか？日常診療でよく遭遇するケースをもとに高齢者診療の原則、高齢者特有の症状や兆候の評価および介入法、QOLの向上をもたらすケアのゴールの導き方を提示します。

Japan has the highest aging rate in the world, a trend expected to continue increasing. By 2025, one in five individuals will be aged 75 years or older. According to the 2023 Patient Survey by Japan's Ministry of Health, Labour and Welfare, more than half of hospitalized patients are aged 75 or older. Although average life expectancy is rising, healthy life expectancy—the duration spent without restrictions on daily activities—remains stagnant. Consequently, healthcare providers are increasingly required to address the diverse needs and complex medical conditions typical of elderly populations, emphasizing geriatric principles and holistic approaches. Despite these growing needs, structured educational opportunities in geriatrics remain limited within undergraduate and postgraduate medical education. This session

addresses critical considerations in the acute hospital care of elderly patients, providing practical insights based on commonly encountered clinical scenarios. Participants will gain knowledge of core geriatric principles, evaluation methods for age-specific symptoms and signs, appropriate interventions, and approaches to setting care goals aimed at enhancing the quality of life for elderly patients.

Saturday, June 28, 2025 10:30-11:30

第5会場(講義室 502)

Genespelist 白熱教室!!

「High Value Care × Genespelist」

Genespelist Exciting Class!!

— Rethinking High-Value Care with a Genespelist Mindset —



鈴木 聡

市立旭川病院・総合内科

Satoshi Suzuki

Division of General Internal Medicine, Asahikawa City Hospital

田村 志宣

和歌山ろうさい病院
内科



原 将之

京都済生会病院
腎臓内科



河野 圭

栃木医療センター
内科



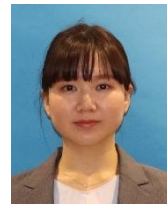
西山 大地

市立福知山市民病院
血液内科



大山 京佳

浜松医科大学
循環器内科



棟方 奈菜

京都府立医科大学
救急医学教室



安藤 玲

市立函館病院
救急科



Shinobu Tamura

Department of Internal Medicine,
Wakayama Rosai Hospital

Masayuki Hara

Department of Nephrology,
Kyoto Saiseikai Hospital

Kei Kawano

Department of Internal Medicine,
Tochigi Medical Center

Daichi Nishiyama

Division of Hematology,
Fukuchiyama City Hospital

Keika Oyama

Division of Cardiology, Internal Medicine III,
Hamamatsu University School of Medicine

Nana Munakata

Department of Emergency Medicine,
Kyoto Prefectural University of Medicine

Rei Ando

Emergency and critical care center, Hakodate Municipal Hospital

G-CMEC (Generalism–Continuing Medical Education Committee)は、内科医の生涯教育として「general mind」を涵養する活動をしています。

私たちが定義する「general mind」とは、患者さんの抱える健康問題に対して、自身の専門分野に捉われることなく、あらゆる領域の基本的な知識と手技を継続的に学び続ける姿勢を指します。そして specialty を持ちながらも「general mind」を保ち、患者中心の実践的医療を行う医師を「genespelist」と称しています。こうした理念を広く伝えるため、年次総会やウェブセミナーにおいて「Genespelist 白熱教室!!」を定期的に開催し、生涯教育活動を通じて「general mind」の普及に努めています。

今回は、ACP が提唱する「High Value Care (HVC)」に焦点を当てます。現代の医療現場では、検査や治療法の多様化により、患者はより高度で複雑な医療を受ける機会を得た一方で、その反面として医療費の増大や、限られた医療資源の持続可能性への懸念が高まっています。さらに、高額な医療行為が必ずしも患者にとっての「価値(Value)」を伴っているとは限らないという問題も顕在化しています。

こうした課題に対して、Choosing Wisely campaign に代表される「低価値医療の削減」を目的とした提言も増えてきましたが、私たちは日常診療で、どれほど「High Value Care」を実践できているでしょうか。

本セッションでは、HVC の基本概念と現在の課題を整理した上で、具体例を提示しながら、実際の医療現場で HVC を適用する際の困難や葛藤を参加者と共に議論します。理想論にとどまらない、現場目線の「価値ある医療」への実践につなげる場となることを目指します。

The Generalism-Continuing Medical Education Committee (G-CMEC) promotes the development of the “general mind” among internists as part of continuing medical education. We define the “general mind” as an attitude of continuously acquiring basic knowledge and skills across various medical fields, regardless of one’s specialty, in order to address diverse health problems. We refer to physicians who maintain this mindset as “Genespelists.” To spread this concept, we have regularly hosted sessions titled “Genespelist exciting class!!” at our annual meetings and in webinars as part of our lifelong learning initiatives.

In this session, we will focus on “High-Value Care (HVC),” a concept advocated by the American College of Physicians. Medical advances have allowed patients to benefit from more sophisticated diagnostic and therapeutic options. However, there are growing concerns about rising healthcare costs and the sustainability of limited resources. Moreover, it has become clear that expensive medical interventions do not always provide true value to patients.

To address these issues, various proposals—such as the Choosing Wisely campaign—have aimed to reduce low-value care. However, how well can we implement “High-Value Care” in daily practice?

This session will outline the basic concept and challenges of HVC. We will also share clinical tips and discuss with participants the difficulties and dilemmas in applying HVC in real clinical settings. Our aim is to create a forum for exchanging ideas and realizing “value-based medical practice,” not only from a theoretical viewpoint.

Saturday, June 28, 2025 12:00-13:00

第5会場(講義室 502)

In the Clinic ～クリニカルボトムラインレクチャー～ Lecture with Clinical Bottom Line in the "In The Clinic"

水木 真平

明石医療センター 総合内科



Shimpei Mizuki

Department of General Internal Medicine, Akashi Medical Center

官澤 洋平

神戸大学医学部附属病院
総合内科



吉野 鉄大

慶應義塾大学医学部
漢方医学センター



河野 圭

国立病院機構 栃木医療センター
内科



Yohei Kanzawa, MD, FACP

Department of General Internal Medicine,
Kobe University Hospital

Tetsuhiro Yoshino, MD, FACP

Center for Kampo Medicine,
Keio University School of Medicine

Kei Kawano

Department of Internal Medicine,
National Hospital Organization Tochigi Medical Center

In the Clinic は臨床現場に必要な知識を提供してくれるレビュー記事で、Annals of Internal Medicine 誌の中でも人気のセクションです。

ACP 日本支部の PRC (Public Relations Committee) 委員会では In the Clinic を米国本部から許可を得て、翻訳するプロジェクトを行っています。また、ACP からこの活動を含めた日本支部の活動に対して Evergreen Award を受賞しています。

今年も In the Clinic を使用したレクチャーを開催いたします。

今年のレクチャーは以下の4つです。

- ・ Gout
- ・ Management of Hyperglycemia in Hospitalized Patients
- ・ Dementia
- ・ Care of the Patient With Abnormal Kidney Test Results

これさえ知っておけば戦える!という内容をまとめています。昨年のレクチャーも好評をいただきました。日々の臨床に対する復習として、ぜひご参加ください。

In the Clinic is a popular section of the Annals of Internal Medicine, with review articles that provide knowledge necessary for clinical practice.

The Public Relations Committee (PRC) of the ACP Japan Chapter has received permission from the U.S. headquarters to translate In the Clinic. Japan chapter has also received the Evergreen Award from ACP for the activities of the Japan Section, including this project.

We will be holding a lecture from In the Clinic again.

This year's topics include:

Gout

Management of Hyperglycemia in Hospitalized Patients

Dementia

Care of the Patient With Abnormal Kidney Test Results

With knowledge from this lecture, you can manage your patients! We gave this lecture last year and it was well received. Please join us as a review of your daily clinical practice.

Saturday, June 28, 2025 13:30-14:30

第 5 会場(講義室 502)

-Mayo Clinic ホスピタリストと学ぶ- 内科医のためのペインマネジメント

Title: Acute pain management in hospitalized patients

-Lessons from the Mayo Clinic hospitalist-



Shafay Raheel

Department of Hospital Internal Medicine, Mayo Clinic

江原 淳

東京ベイ浦安市川医療センター 総合内科

森川 大樹

聖マリアンナ医科大学 救急医学

富手 生成

愛仁会高槻病院 総合内科

津須 ちひろ

東京大学医学部附属病院 眼科

Jun Ehara

Department of general internal medicine,

Tokyo Bay Medical Center

Daiki Morikawa

Department of Emergency and Critical Care Medicine,

St. Marianna University School of Medicine

Kinari Tomite

Department of General Internal Medicine,

Takatsuki General Hospital

Chihiro Tsusu

Department of Ophthalmology, The University of Tokyo

急性疾患で入院した患者が急性疼痛を訴えることは非常に多く、適切な鎮痛管理を行うことは患者の QOL 改善に欠かせない。本セッションでは、Mayo Clinic の現役ホスピタリストである Shafay Raheel 先生より、入院患者の Evidence に基づいたペインマネジメントの方法についてご講演いただく。米国では非癌性疼痛にも広くオピオイドが使用されているが、オピオイドの Benefit と harm について解説する。また、アセトアミノフェン、NSAIDs、ガバペンチノイド、外用薬など多種多様な非オピオイド鎮痛薬の使い分け、ペイン専門家へのコンサルトのタイミング、オピオイド使用障害患者における疼痛管理などペインマネジメントについて広く学ぶことができる。講演は症例ベースで行い、途中にいくつかの多肢選択型の Quiz を設け、参加型のセッションを予定している。最後に国際交流プログラム委員会のメンバーより日本における疼痛マネジメントの課題について紹介し、Raheel 先生と Discussion を行う。本セッションは英語セッションではあるが、講演中適宜日本語での要約を行い、日本語版資料も配布するので英語が苦手な方もぜひご参加されたい。

Patients hospitalized with acute illnesses often experience acute pain. Appropriate pain management is essential for improving their quality of life (QOL). In this session, Dr. Shafay Raheel, a hospitalist at the Mayo Clinic, will deliver a lecture on evidence-based pain management for hospitalized patients. In the United States, opioids are widely used even for non-cancer pain; Dr. Raheel will explain the benefits and harms of opioid use. Additionally, the session will cover the appropriate use of a variety of non-opioid analgesics, including acetaminophen, NSAIDs, gabapentinoids, and topical agents, as well as the timing of consultation with pain specialists and strategies for pain management in patients with opioid use disorder.

The lecture will be case-based and will include several multiple-choice quizzes to encourage active participation. At the end of the session, members of the International Exchange Program Committee will introduce challenges of pain management in Japan, followed by a discussion with Dr. Raheel.

Although the lecture and discussion will be delivered in English, we will insert summaries in Japanese during the lecture and provide Japanese-language handouts.

忙しい指導医のための外来研修医指導法

Practical Approaches to Outpatient Resident Training for Busy Supervising Physicians

金城 光代

沖縄県立中部病院



Mitsuyo Kinjyo

Okinawa Chubu Hospital

友田 義崇

板橋中央総合病院

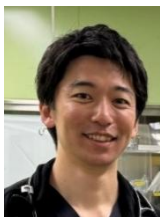


Yoshitaka Tomoda, MD, FACP

Itabashi Chuo Medical Center

堀田 亘馬

京都府立医科大学



猪飼 浩樹

中部ろうさい病院



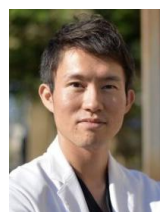
田中 孟

大津赤十字志賀病院



板金 正記

大阪けいさつ病院



Koma Hotta

Kyoto Prefectural University of Medicine

Hiroki Ikai

Chubu Rosai Hospital

Hajime Tanaka

Japanese Red Cross Shiga Hospital

Masaki Itagane

Osaka Keisatsu Hospital

内科外来での研修医指導は、忙しい診療現場において指導医がしばしば直面する課題であり、効率的かつ効果的な指導方法を模索することが求められる。本セッションでは、指導医が抱える外来指導に関する悩みを共有し、指導効果を最大化するための方法を探る。講師は、自施設での経験を基に、研修医とのコミュニケーションやフィードバックの方法について具体的なアプローチを提案する。

指導医が直面する現実的な課題に対して、明日から役立つ実践的なヒントを提供することを目指す。研修医の学習スタイルに応じたフィードバック方法や、限られた時間内でどのように効果的な指導を行うかについて、

具体的なアドバイスを得ることができる。セッションの最後には、参加者からの質問に対して、講師がそれに応じた意見を提供し、指導医としての役割をさらに強化するための方法を共有する。参加者は、このセッションを通じて、外来指導における指導効果を最大化するための具体的な方策を学ぶことができる。

Teaching junior residents in outpatient internal medicine is a challenge that supervising physicians often face in busy clinical settings, where there is a constant need to find efficient and effective teaching methods. This session aims to share the challenges that supervising physicians encounter in outpatient teaching and explore ways to maximize teaching effectiveness. The lecturers will share their experience from their own institutions and propose specific approaches for improving communication with residents and providing feedback.

The session will focus on providing practical tips that can be immediately applied in daily practice to address common challenges faced by supervising physicians. Advice will be given on how to offer feedback that suits the learning styles of junior residents and how to effectively teach within the time constraints of a busy clinical environment.

At the end of the session, the lecturers will respond to questions from the participants, offering insights and suggestions for further enhancing the role of supervising physicians. Through this session, participants will gain specific strategies to maximize teaching effectiveness in outpatient settings.

Saturday, June 28, 2025 13:30-14:30

第6会場(講義室 503)

MKSAP ～必須知識を体得する米国流ショートカット!!!～

MKSAP -An American shortcut to obtain necessary knowledge!!!-

八重樫 牧人

新宿つかめクリニック/ 医療法人徳洲会

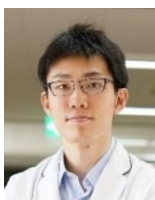
Makito Yaegashi, M.D., FACP, FCCP

Shinjuku Tsurukame Clinic / Tokushukai Hospital Group



田中 幸介

京都大学大学院 医学研究科
リアルワールドデータ研究開発講座



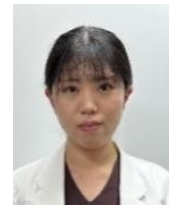
小林 堯広

横田米空軍基地病院



高木 未唯

亀田総合病院
総合内科



武田 侑真

亀田総合病院
総合内科



安部 丈太郎

沖縄県立南部医療センター・
こども医療センター



面 美来

東京医療センター



南 宏太

佐賀大学医学部附属病院



福田 佳那子

沖縄県立南部医療センター・
こども医療センター



岡村 結

筑波大学医学類



田中 裕一郎

島根大学医学部



Kosuke Tanaka

Department of Real World Data R&D,
Graduate School of Medicine, Kyoto University

Yuma Takeda

Department of General Internal Medicine,
Kameda Medical Center

Kota Minami

Saga University Hospital

Takahiro Kobayashi

Yokota U.S. Air Base Hospital

Jotaro Abe

Okinawa Prefectural Nanbu Medical Center
& Children's Medical Center

Kanako Fukuda

Okinawa Prefectural Nanbu Medical Center
& Children's Medical Center

Miyu Takagi

Department of General Internal Medicine,
Kameda Medical Center

Mirai Omote

National Hospital Organization Tokyo Medical Center

Yui Okamura

College of Medicine, Tsukuba University

Yuichiro Tanaka

School of Medicine, Shimane University

MKSAP (Medical Knowledge Self-Assessment Program)とは、米国内科学会 ACP が作成した米国の内科専門医試験勉強のための教材です。日本の医師にとっても、入院・外来で世界レベルの内科医 Doctor for Adults として医療を実践するのに必要な知識が学べる、世界最強の教材でもあります。MKSAP の症例ベースの問題と解説から学ぶことは、日本でも多くの施設で教育手法として採用されています。今年 2025 年 2 月に MKSAP はオンラインベースの適宜更新される教材として生まれ変わりました。その新生 MKSAP から厳選した 10 問で実践的な最新知識と、MKSAP の活用方法を学びます。今回も ACP 日本支部の RFC (Resident Fellow committee) と Student committee とのコラボセッションです。過去の総会でも大好評を博した、参加者全員で参加し学ぶインタラクティブなセッションをお楽しみに！

MKSAP (Medical Knowledge Self-Assessment Program) is a teaching material to study for the internal medicine board examination in the U.S.A., which the ACP created. It is also the strongest teaching material for Japanese doctors to master the knowledge and skills of a world-class physician for adults in hospitals and outpatient clinics. Many teaching hospitals in Japan use MKSAP as an effective teaching method. In February 2025, MKSAP was reborn as an online-based teaching material that is updated accordingly. With 10 carefully selected questions from the new MKSAP, you can learn the latest practical knowledge and how to use MKSAP. This is a collaborative session with the RFC (Resident-Fellow Committee) and the Student Committee of the ACP Japan Chapter. Stay tuned for an interactive session where you can participate and learn throughout the session, which has been very well received at past meetings!

6 月 29 日(日)

抄録

最新論文 20 選 2025 年～忙しいあなたのために～

Internal Medicine Update: the important 20 articles
in 2024 and 2025



平岡 栄治

東京ベイ浦安市川医療センター

Eiji Hiraoka

Tokyo Bay Urayasu Ichikawa Medical Center

八重樫 牧人

新宿つかめクリニック/医療法人徳洲会

山田 徹

東京科学大学大学院総合診療医学分野

江原 淳

東京ベイ浦安市川医療センター 総合内科、呼吸器内科

居積 晃希

聖マリアンナ医科大学 救急医学

平井 太郎

東京ベイ・浦安市川医療センター 腎臓・内分泌・糖尿病内科

花岡 黎

聖マリアンナ医科大学医科大学 リウマチ・膠原病・アレルギー内科

鈴木 翔太郎

聖マリアンナ医科大学 リウマチ・膠原病・アレルギー内科

佐々木 昭典

東京ベイ浦安市川医療センター 消化器内科、腫瘍内科

平岡 栄治

東京ベイ浦安市川医療センター 総合内科

山羽 智大

東京ベイ・浦安市川医療センター 消化器内科

岸野 圭牙

東京ベイ浦安市川医療センター 呼吸器内科

鍋島 正慶

東京ベイ・浦安市川医療センター 救急集中治療科(集中治療部門)

藤井 修一

聖マリアンナ医科大学 救急医学

遠藤 慶太

東京ベイ・浦安市川医療センター 腎臓・内分泌・糖尿病内科

伊藤 万里子

聖マリアンナ医科大学 腎臓・高血圧内科

増田 陽平

岡山大学病院 総合内科・総合診療科

織田 廉太郎

東京都立多摩総合医療センター 感染症内科

Makito Yaegashi, M.D., FACP, FCCP

Shinjuku Tsurukame Clinic / Tokushukai Hospital Group

Toru Yamada

Department of General Medicine, Graduate School of Medical
and Dental Sciences, Institute of Science Tokyo

Jun Ehara

Department of Pulmonary Medicine

Koki Suezumi

Department of Emergency and Critical Care Medicine,
St. Marianna University School of Medicine

Taro Hirai

Department of Nephrology, Endocrinology, and Diabetes,
Tokyo Bay Urayasu Ichikawa Medical Center

Rei Hanaoka

Department of Rheumatology and Allergology,
St. Marianna University of Medicine

Shotaro Suzuki

Department of Rheumatology and Allergology,
ST. Marianna University School of Medicine

Akinori Sasaki

Department of Gastroenterology,
Tokyo Bay Urayasu Ichikawa Medical Center

Eiji Hiraoka

Department of Internal Medicine, Tokyo Bay Urayasu Ichikawa Medical Center

Tomohiro Yamaba

Department of Gastroenterology

Keigo Kishino

Department of Pulmonary Medicine

Tadanori Nabeshia

Department of Emergency and Critical Care Medicine,
Tokyo Bay Urayasu Ichikawa Medical Center

Shuichi Fujii

Department of Emergency and Critical Care Medicine
St. Marianna University School of Medicine

Keita Endo

Department of Nephrology, Endocrinology, and Diabetes,
Tokyo Bay Urayasu Ichikawa Medical Center

Mariko Ito

Department of Nephrology and Hypertension,
St. Marianna University of Medicine

Yohei Masuda

Department of General Medicine, Okayama University Hospital

Rentaro Oda

Department of Infectious Disease,
Tokyo Metropolitan Tama Medical Center

ジェネラリストの誇り：常にアップデートし続けるために、が今年のテーマとのこと。総合内科医はすべての患者を臓器横断的に全人的にケアする専門医である。全臓器に関し幅広くしかもなるべく深く知識をアップデートしていかなければならない。臓器専門家とともに診療にあたる機会も多く、彼らと発展的な議論をするためには、アップデートされた専門知識がある程度なければならない。

米国内科学会雑誌 Annals of Internal Medicine では ACP journal club など各臓器・専門分野の Update シリーズにて最新論文が紹介されている。今回、この一年間に発表された各臓器のキーになる論文 20 本あまりを厳選し日常臨床に役立てるように解説する。

We, general internal medicine physicians, take care of wide variety of diseases. In addition, we often have a chance to collaborate with various subspecialists for the best care of the patients. Therefore, we have to be updated enough to maximize the benefit of the consultation. Although subspecialists have only to be updated in one organ system they specialize in, we need to get the latest evidence of all organ systems at more than a certain level.

In the U.S.A, there are lots of useful resources to get updated evidence, including ACP journal club and update series of each organ systems in Annals of Internal Medicine. Furthermore, in the annual meeting of ACP, key important articles have been presented every year. Those are very helpful.

In our session, we will pick up about 20 articles which were published in 2024 and 2025. We will also explain some tips of how to apply them to clinical practice.

ACP アンバサダー講演

Beyond the Stethoscope: Power and Pitfalls of
Point-of-care Ultrasound in Internal Medicine

Irene Ma, MD, PhD, FRCPC, FACP, FAIUM

Division of General Internal Medicine, Department of Medicine,
University of Calgary Cumming School of Medicine



Dr. Irene Ma is the Governor of Prairies Provinces Chapter of American College of Physicians. As a Professor of Medicine and the John A. Buchanan research chair holder at the University of Calgary, Dr. Ma practices general internal medicine, with a research focus in medical education, procedural skills, and point-of-care ultrasound (POCUS). Dr. Ma completed a 1-year Emergency Ultrasound Fellowship at Massachusetts General Hospital in Boston. Dr. Ma has a MSc in Epidemiology from Stanford University and a PhD in Medical Education from the University of Calgary. Dr. Ma serves on the executive board at the American Institute of Ultrasound in Medicine as Third Vice President and is an Executive Member and Associate Director of the Royal College of Physicians and Surgeons of Canada Internal Medicine Examination Board.

Point-of-care ultrasound (POCUS) is increasingly used at the bedside to assess patients with complex medical conditions. By enabling real-time visualization of anatomical structures and physiological processes, POCUS empowers clinicians to make more accurate clinical decisions.

This presentation will explore both the transformative value and the inherent limitations of POCUS in the practice of internal medicine. Through illustrative cases and current evidence, this presentation will examine the clinical impact of POCUS while critically evaluating its pitfalls. Additionally, this presentation will discuss how robust implementation – through structured education and training pathways, supportive infrastructure, and policy frameworks -- can mitigate the pitfalls of POCUS and promote its safe use across diverse clinical settings

Doctor's Dilemma Competition

(臨床研修病院対抗クイズトーナメント)

米国 ACP 年次総会では、全米の有名研修病院から予選を勝ち抜いたチームがトーナメント形式で参加するクイズ大会「Doctor's Dilemma」を開催しています。本企画は、それに倣ったもので、日本支部 2015 年次総会から新たに始まりました。米国 ACP が提供している Medical Knowledge Self-assessment Program (MKSAF)、Annals of Internal Medicine や Dyna Med Plus を利用した問題や、オリジナルの問題から出題されます。今年は全国から 14 チームの参加で、各スペシャリストからの解説と特別ゲストの清田雅智先生コメントがあります。聴衆の皆さんも楽しめる内容となっていますので、次世代を担う若き精鋭達の熱い戦いを応援してください。上位チームから 2026 年サンフランシスコ大会へ日本代表が選出されます。

日時：2025 年 6 月 29 日（日）

Doctor's Dilemma Japan 予選：9:40-11:20 決勝：13:00-14:50

場所：国際医療福祉大学東京赤赤キャンパス 第2会場（特大講義室 302/303）

出題形式：選択回答（予選）

選択回答+記述回答（決勝：上位6チーム）

参加チーム：14 チーム（1 チーム 2 名）

別府医療センター、東京ベイ・浦安市川医療センター、獨協医科大学病院①、獨協医科大学病院②、獨協医科大学病院③、名古屋医療センター、明石医療センター①、福島県立医科大学総合内科・総合診療医センター、明石医療センター②、中部労災病院、大同病院①、洛和会丸太町病院、飯塚病院総合、大同病院②

過去の優勝病院

- ・2015 年 白川総合病院
- ・2016 年 松波総合病院
- ・2017 年 練馬光が丘病院
- ・2018 年 東京ベイ・浦安市川医療センター総合内科
- ・2019 年 栃木医療センター
- ・2020 年 中止
- ・2021 年 岡山市立市民病院

- ・ 2022 年 福島県立医科大学附属病院
- ・ 2023 年 福島県立医科大学附属病院
- ・ 2024 年 多摩総合医療センター・諏訪中央病院

日本代表選考会：

志水 英明、中野 弘康、寺下 真帆、宇都宮 雅子、吉野 俊平、猪飼 浩樹、片岡 惇、八重樫 牧人、
清田 雅智（コメンテーター）

Doctor's Dilemma Competition in Japan

Also known as Medical Jeopardy, ACP Doctor's Dilemma is held each year at the scientific Internal Medicine Meeting with up to 50 teams comprising of residents from famous teaching hospitals from around the world compete in the USA for the title of national champion. Doctor's Dilemma in Japan was created from the American competition, which is held during ACP annual meeting. We began the Japanese Doctor's Dilemma in 2015. The questions are originally created from the Medical Knowledge Self-Assessment Program (MKSAP), Annals of Internal Medicine and DynaMed Plus. 14 teams from all over Japan participated this year. You will be enjoyed this session due to Commentary from specialists doctor's dilemma committee and special guest Dr. Masatomo Kiyota. Please support this exciting tournament and watch young next generation physicians from Japan's top teaching hospitals battle for the top spot of Doctor's Dilemma champions 2025. The winners of the competition will represent Japan in the 2026 US tournament.

June 29th, 2025(Sunday)

Doctor's Dilemma Japan Elimination round 9:40-11:20 Final round 13:00-14:50

Doctor's Dilemma Committee:

Hideaki Shimizu, Hiroyasu Nakano, Maho Terashita, Masako Utsunomiya, Shumpei Yoshino, Hiroki Ikai

Jun Kataoka, Makito Yaegashi



志水 英明 Hideaki Shimizu
大同病院 腎臓内科



中野 弘康 Hiroyasu Nakano
竹山病院 内科



寺下 真帆 Maho Terashita
Brigham and women's hospital/聖マリアンナ医科大学



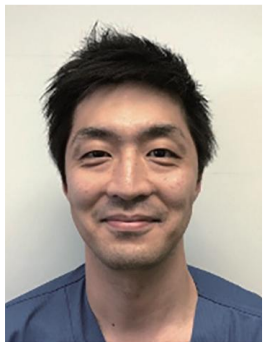
宇都宮 雅子 Masako Utsunomiya
グランてらす小平団地クリニック



吉野 俊平 Shumpei Yoshino
飯塚病院 総合診療科・集中治療科



猪飼 浩樹 Hiroki Ikai
中部ろうさい病院



片岡 惇 Jun Kataoka
練馬光が丘病院 総合救急診療科 集中治療部門



八重樫 牧人 Makito Yaegashi
新宿つるかめクリニック/ 医療法人徳洲会



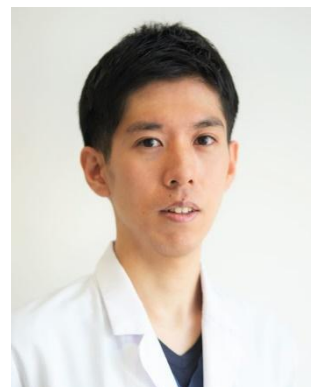
清田 雅智 Masatomo Kiyota
飯塚病院 総合診療科

明日からの臨床に役立つ上肢 MMT の習得

Mastering upper limb MMT for daily clinical practice.

杉田 陽一郎

東京ベイ・浦安市川医療センター



Yoichiro Sugita

Tokyo-Bay Urayasu Ichikawa medical center, Neurology department

小松 桃子

東京ベイ・浦安市川医療センター 総合内科

梁 美紗

東京ベイ・浦安市川医療センター 総合内科

Momoko Komatsu

Tokyo Bay Urayasu-Ichikawa Medical Center General Internal Medicine

Misa Yang

Tokyo Bay Urayasu-Ichikawa Medical Center General Internal Medicine

MMT(manual muscle test)は学生で習って以来体系的に学習する機会が乏しいかもしれません。診察方法に対して「これでよいのかな？」となかなか自身が持てず、日々なんとなく診察をしてしまっているかもしれません。神経診察は一度体系的に「型」を学び、それを実臨床で実践、反復していく過程で習得できます。今回のワークショップでは座学だけでは学びきれない MMT の型を対面で練習することで、明日からの臨床に役立てることを目的としています。特に上肢に絞り「橈骨神経麻痺と脳梗塞をどう鑑別するか?」、「末梢神経障害と神経根障害をどう鑑別するか?」など具体的なシチュエーションを想定して学んでいきます。

Manual muscle testing (MMT) is often taught during medical school, but opportunities to systematically review and practice it in clinical settings may be limited. As a result, many clinicians may find themselves uncertain—wondering, "Am I doing this correctly?"—and performing physical examinations somewhat intuitively rather than with confidence. Neurological examination techniques, including MMT, can be mastered through a structured approach: first learning the standard "form," and then applying and repeating it in real clinical situations.

This workshop aims to enhance practical MMT skills that are difficult to fully acquire through lectures alone, by providing hands-on, face-to-face training. The focus will be on the upper limbs, and participants will work through realistic clinical scenarios such as: "How can we differentiate between radial nerve palsy and cerebral infarction?" and "How can we distinguish between peripheral nerve and nerve root lesions?" The goal is to provide immediately applicable skills that can be used in daily clinical practice starting the very next day.

遺伝医学・ゲノム医学を学びなおす

Recurrent learning for genetic medicine and genomic medicine

渡邊 淳

金沢大学附属病院 遺伝診療部

Atsushi WATANABE

Division of Clinical Genetics, Kanazawa University Hospital



岩崎 直子

東京女子医科大学附属八千代医療センター 糖尿病内分泌代謝内科

東京女子医大病院 ゲノム診療科

Naoko Iwasaki, MD, FACP

Division of Diabetes, Endocrinology and Metabolism, Tokyo Women's Medical University Yachiyo Medical Center

Institute of Medical Genetics, Tokyo Women's Medical University Hospital

2003 年にヒト全ゲノム配が公開され、ポストゲノム時代となった。指定難病の 7 割は単一遺伝子疾患であり、多くの確定診断は保険適用になってきた。がんゲノム医療では、ときに二次的所見として遺伝性の可能性を提示される。このようにポストゲノム時代となったこの 20 年で医療現場では遺伝子関連検査を提案される場面が増え、患者は様々な選択や判断をする機会となっている。

医学教育において遺伝医学関連項目は、米国においては、米国人類遺伝学会から「Medical School Core Curriculum in Genetics」(Am. J. Hum. Genet. 56:535-537, 1995) が示され、USMLE Unit1 の 1 科目に Human Development and genetics が含まれている。一方本邦では、2000 年代初頭、医学教育において遺伝医学関連項目は分子生物学関連が多く、遺伝医療関連は各大学に任されていた。2016 (平成 28) 年改訂された医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に遺伝医学・ゲノム医学領域が大幅に増え、新たに遺伝医療・ゲノム医療の項目が加わり、わが国のすべての医学部学生が卒業までに習得することになった。

最近、社会人の学び直しとしたリカレント教育が注目されている。遺伝医学・ゲノム医学は、卒業後の医学・医療の進歩、疾病構造の変化に加えて本邦特有の状況もあり新たに加わった項目も増えている。

本講演では、遺伝医学・ゲノム医学最新の動向も紹介し、参加者の皆様にとり遺伝医学・ゲノム医学を学びなおす機会になれば幸いである。

In 2003, the human whole genome sequence was published, ushering in the post-genomic era. Currently, 70% of designated intractable diseases are single-gene diseases, and many definitive diagnoses have become covered by insurance. In cancer genomic medicine, the possibility of hereditary causes is sometimes presented as a secondary finding. In this way, in the past 20 years, genetic tests are proposed in the medical field, providing patients with the opportunity to make various choices and decisions.

In the United States, ASHG has set out the Medical School Core Curriculum in Genetics (Am. J. Hum. Genet. 56:535-537, 1995), and Human Development and Genetic is included in USMLE Unit 1. Meanwhile, in Japan, in the early 2000s, genetics-related subjects were mostly related to molecular biology and were left to each university. The contents of the Medical Education Model Core Curriculum revised in 2016 significantly increased the number of genetic and genomic medicine fields, and new subjects on genetic and genomic medicine were added, which all medical students in Japan are required to learn by the time they graduate.

In recent years, recurrent education has gained attention. In genetic and genomic medicine, this involves incorporating the latest advancements in science, evolving disease frameworks, and the specific needs of Japan's healthcare system.

This lecture will present the latest developments in genetic and genomic medicine, and I hope it will serve as an opportunity for participants to refresh and deepen their understanding of these fields.

Sunday, June 29, 2025 11:40-12:40

第4会場(講義室 501)

エビデンスに基づく成人の予防医療 2025 年版

Evidence-based preventive medicine for adults in 2025

八重樫 牧人

新宿つかめクリニック/医療法人徳洲会

Makito Yaegashi, M.D., FACP, FCCP

Shinjuku Tsurukame Clinic/Tokushukai Hospital Group



相田 雅司

福島県立医科大学

白河総合診療アカデミー



廣橋 航

おうち診療所西新井



柳川 健

柳川クリニック



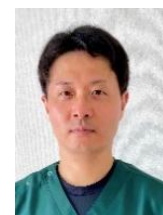
内田 梨沙

ケンブリッジ大学



白石 龍人

グリーン在宅クリニック



岡本 雄太郎

山口市徳地診療所



酢谷 俊介

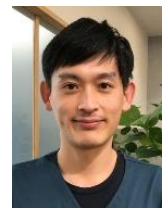
橋本市民病院

総合診療科



山田 紘理

川崎市立多摩病院



山田 一輝

湘南鎌倉総合病院

総合診療科



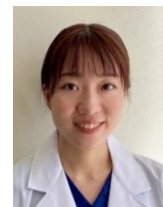
飯島 由佳

ジョンズホプキンス大学



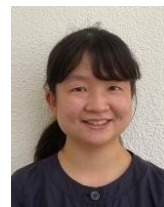
高野 彩佳

上越総合病院



伊庭 知里

慶應義塾大学医学部



南 宏太

佐賀大学医学部附属病院



小林 亮広

米軍横田空軍基地病院



村越 和輝

順天堂大学医学部附属

順天堂医院



Masashi Aida

Fukushima Medical University,
Satellite for Teaching And Research

Wataru Hirohashi

Ouchi Clinic Nishiarai

Takeshi Yanagawa, MD, FACP

Yanagawa Clinic

Lisa Uchida

University of Cambridge

Ryuto Shiraishi

Green Home Clinic

Yutaro Okamoto

Yamaguchi City Tokuji Medical Clinic

Shunsuke Suya

Hashimoto Municipal Hospital

Hironori Yamada

Kawasaki Municipal Tama Hospital

Kazuki Yamada

Shonan Kamakura General Hospital
Department of General Medicine

Yuka Iijima

Johns Hopkins University

Ayaka Takano

Joetsu General Hospital

Chisato Iba

Keio University Faculty of Medicine

Kota Minami

Saga University Hospital

Takahiro Kobayashi

Yokota US Air Base Hospital

Kazuteru Murakoshi

Juntendo University Hospital

日本では、エビデンスに基づいた予防医療を実際に受けている患者はまだ少なく、医師の予防医療に関する知識も十分とは言えません。その結果、外来や病棟で予防医療を提供する貴重な機会を逃してしまっている現状があります。内科医は予防医療の実践において中心的な役割を担うべき存在です。実際、日本においても予防医療の実践は十分に可能です。本セッションでは、USPSTF や ACIP などのエビデンスに基づいたガイドラインに沿って、予防医療の具体的な項目についてわかりやすく解説します。取り上げるテーマは、肺炎球菌、インフルエンザ、帯状疱疹、HPV、新型コロナウイルスなどのワクチン、大腸がん、胃がん、乳がん、子宮頸がん、肺がんの検診、高血圧、糖尿病、喫煙、骨粗鬆症、転倒予防、うつ病のスクリーニングなど多岐にわたります。

本セッションの目標は、参加者がそれぞれの患者にとって必要な予防医療を的確に提供できるようになることです。毎年大好評をいただいている本セッションを、今回は 2025 年度版にアップデートし、ACP 日本支部予防医療推進タスクフォースのメンバーがお届けします。

Few patients in Japan receive preventive medicine proven by clinical evidence. In addition, physicians need to have more knowledge about appropriate preventive medicine. This resulted in missed opportunities for preventative care in outpatient or inpatient settings. Internists are the most crucial players in providing preventive medicine to adult patients since they provide continuous care. Therefore, we can provide preventive medicine in Japan. This session will explain each topic of preventative medicine for adult outpatients according to the evidence-based guidelines by the U.S. Preventive Service Task Force (USPSTF) and ACIP (Advisory Committee on Immunization Practices). These include the following:

- ・ Vaccines against pneumococcus, influenza, herpes zoster, hepatitis, HPV, and coronavirus.
- ・ Cancer screening for colorectal cancer, gastric cancer, breast cancer, cervical cancer, and lung cancer.
- ・ Screening for hypertension, diabetes, smoking, osteoporosis, falls, and depression.

After this session, the audience will understand evidence-based preventive medicine for each patient, with or without reference material. The ACP Preventive Medicine Task Force will provide this interactive session updated for 2025.

Sunday, June 29, 2025 9:00-10:00

第5会場(講義室 502)

医師のウェルビーイングを支える： バーンアウト対策の最新知見と実践的アプローチ

Supporting physician well-being: Latest evidence and
practical approaches for burnout prevention



鋪野 紀好

千葉大学大学院医学研究院・地域医療教育学

Kiyoshi Shikino, MD, FACP

Chiba University Graduate School of Medicine・Department of Community-Oriented Medical Education

石塚 晃介

横浜市立大学・医学部総合診療医学



田中 英美理

東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター



森谷 満

北海道医療大学病院・内科心療内科

山本 典子

山本クリニック

志村 華絵

神奈川県立保健福祉大学・保健福祉学部人間総合科

野中 沙織

台東病院・総合診療科

佐土原 道人

熊本大学病院・総合診療科

西村 義人

Mayo Clinic・Division of Hematology and Oncology

栗山 明

McMaster University・Department of Health Research Methods, Evidence, and Impact

Mitsuru Moriya

Health Sciences University of Hokkaido Hospital・
Department of Psychosomatic Internal Medicine

Noriko Yamamoto, MD, FACP

Yamamoto clinic

Hanae Shimura

Kanagawa University of Human Services・
Department of Liberal Arts and Sciences

Kosuke Ishizuka

Yokohama City University School of Medicine・
Department of General Medicine

Emiri Tanaka

The Jikei University Tokatsu medical center

Saori Nonaka

Taito Hospital・Department of General Medicine

Yoshito Nishimura

Mayo Clinic・Division of Hematology and Oncology

Michito Sadohara

Kumamoto University Hospital・
Department of Community, Family,
and General Medicine,

Akira Kuriyama

McMaster University・
Department of Health Research Methods,
Evidence, and Impact

概要：本セッションでは、最新のバーンアウトに関するエビデンスと、医師のウェルビーイングを支えるための個人・組織レベルの実践的アプローチを紹介します。ロールプレイやグループディスカッションなど、参加型の要素を取り入れ、コーチングやマインドセットの重要性を体感的に学べる構成としています。

背景と目的：医師の約 3～5 割がバーンアウトの症状を経験しているとされ、特に若手医師、女性医師、プライマリ・ケア医は高リスク群とされています。バーンアウトは医師個人の健康だけでなく、診療の質、ひいては医療システム全体に悪影響を及ぼします。近年、Well-being 2.0 の概念が提唱され、医師のプロフェッショナルとしての充実と、組織としての支援の必要性が高まっています。

内容：バーンアウトに関する最新の国際エビデンスの紹介、組織レベル・個人レベルの介入（勤務環境、チームビルディング、コーチング等）、バーンアウト要因の整理と対処戦略の共有を行います。

期待される成果：医師のウェルビーイングに関する理解と関心の向上、自身および同僚のバーンアウトに早期に気づく視点の獲得、日常業務で実践できるコーピングスキルと戦略を習得します。

特徴：本セッションは、Physicians' Well-being Committee による企画であり、国内外の最新知見をもとにした実践的なセッションです。バーンアウト予防の国際的エビデンスを学びながら、参加者が自らの職場に応用できる知識とスキルを獲得することを目指します。

Overview: This session will present the latest evidence on physician burnout and introduce practical approaches to support physician well-being at individual and organizational levels. Through role-playing and group discussions, participants will gain experiential learning in coaching and mindset transformation.

Background and Purpose: Burnout affects approximately 30–50% of physicians, especially among residents, female doctors, and primary care providers. It poses risks to individual physicians, patient care, and the healthcare system. The concept of "Well-being 2.0" emphasizes the importance of fostering professional fulfillment and shared responsibility between individuals and institutions.

Content: Presentation of up-to-date evidence on burnout and well-being, and introduction to individual and organizational interventions (e.g., schedule optimization, team building, coaching)

Expected Outcomes: Enhanced understanding of physician well-being and burnout, Increased awareness of early detection and intervention, Acquisition of actionable coping strategies and coaching skills

Strengths: This workshop is jointly organized by the Physicians' Well-being Committee and Women's Committee of ACP Japan Chapter. Participants will engage with experts who bring global perspectives and experience in physician coaching and mentorship. It offers a hands-on opportunity to develop skills that can be implemented in daily clinical practice.

私たちの選択が未来を創る！
医学生視点で考える
キャリアパスとワークライフバランスの現実
Crafting Our Own Paths: Career Choices and Work-Life Balance



金本 昌大

東海大学医学部

Masahiro Kanamoto

Tokai University School of Medicine

富田 明澄

群馬大学医学部



山崎 響

順天堂大学医学部



鈴木 裕希

島根大学医学部



山下 宥佳

群馬大学医学部



岡村 結

筑波大学医学群



小林 ななみ

群馬大学医学部



田中 裕一郎

島根大学医学部



寺島 美優

岡山大学医学部



松田 眞依

浜松医科大学医学部



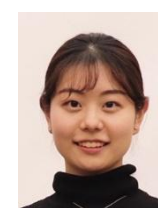
服部 優奈

慶應義塾大学医学部



切通 舞

滋賀医科大学医学部



Asumi Tomita

Gunma University School of Medicine

Hibiki Yamazaki

Juntendo University Faculty of Medicine

Yuki Suzuki

Shimane University Faculty of Medicine

Hiroka Yamashita

Gunma University School of Medicine

Yui Okamura

University of Tsukuba School of Medicine

Nanami Kobayashi

Gunma University School of Medicine

Yuichiro Tanaka

Shimane University Faculty of Medicine

Miyu Terashima

Okayama University Medical School

Mai Matsuda

Hamamatsu University School of Medicine

Yuna Hattori

Keio University School of Medicine

Mai Kiritoshi

Shiga University of Medical Science School of Medicine

医師の働き方改革や社会的価値観の変化を背景に、医学生においてもワークライフバランス（WLB）への関心が高まっている。本発表の前半（A グループ）では、日本の医学生を対象とした WLB 志向に関する意識調査の結果を整理し、志望診療科や勤務形態の傾向を明らかにする。さらに、海外の医学生に関する既存文献を参照し、教育環境や支援制度の相違について比較検討することを目的とする。

後半（B グループ）では、日本の大学医学部における WLB 教育の現状を把握することを目的に、B グループメンバーが在籍する大学を対象として調査を行う。2023～2025 年度のシラバスに基づき、WLB に関連する講義の有無、対象学年、講義時間、講義内容を整理するほか、講義担当教員への聞き取り調査を実施し、講義の主題や実施意図に関する情報を収集する予定である。これらの調査を通じて、日本における WLB 教育の導入状況と課題を明確化し、今後の医学教育への提言につなげることを目指す。

In recent years, medical students in Japan have shown increasing interest in work-life balance (WLB), influenced by ongoing healthcare workstyle reforms and changing societal values. In the first part of this presentation (Group A), we present the results of a survey conducted among Japanese medical students, focusing on their attitudes toward WLB and how these attitudes relate to their preferred specialties and working styles. We also examine international literature on medical students to compare differences in educational environments and support systems across countries.

The second part (Group B) explores the current state of WLB education in Japanese medical schools. Group B conducted a survey at their respective universities, analyzing syllabi from the 2023 to 2025 academic years. The analysis includes whether WLB-related lectures are offered, the targeted academic year, lecture duration, and content. In addition, interviews with instructors responsible for these lectures are planned to gain deeper insight into the themes and objectives of the courses. This study aims to clarify the current implementation and challenges of WLB education in Japan and to offer recommendations for future improvements in medical education.

プラネタリーヘルス： 医療の実践におけるプラネタリーヘルス

今中 雄一

京都大学大学院医学研究科ヘルスセキュリティセンター



Yuichi Imanaka

Center for Health Security, Kyoto University Graduate School of Medicine

Planetary Health は、気候変動による影響を踏まえ、人の健康と地球環境の健全性の相互依存性を理解し一体的に守ろうとするものである。

【医療人にとって、他人ごとではない】

医療人にとって、他人ごとではないことは、以下の2点からも明らかである。

即ち、医療は、健康危機への対応にも大きく貢献でき、CO2 排出量削減にも大きく貢献できる、極めて重要な役割を担っている。

(1) 気候変動による自然災害等により人の健康やそれを支える社会に及ぼす影響は甚大となり、多くの命や健康が危機に曝されるようになっている。

(2) 医療・福祉のエネルギー起源 CO2 排出量は、業種別では2位、3位を争うほどの最大規模の排出源となっている。

(環境省令和4年度「温室効果ガス排出・吸収量について」によると、卸売業・小売業 3,710 万トン、宿泊業・飲食サービス 2,500 万トンに次ぐ 2,220 万トン)

【知っておくべき医学・医療界での世界的流れ】

以下の医療・医学の流れは、医療人の常識として把握しておく必要がある。

・Lancet とロックフェラー財団の合同委員会 The Rockefeller Foundation–Lancet Commission on Planetary Health が、2015 年に報告書 Safeguarding human health in the Anthropocene epoch: report of The Rockefeller Foundation–Lancet Commission on planetary health ([http://dx.doi.org/10.1016/S0140-6736\(15\)60901-1](http://dx.doi.org/10.1016/S0140-6736(15)60901-1)) を発表した。

・それを受け The Lancet Planetary Health 誌が 2017 年 4 月に創刊される(現在 IF は 20 超)

・2021 年には、世界の関係組織が連合する Planetary Health Alliance が The São Paulo Declaration on Planetary Health を発表し、保健医療分野での Planetary Health に関する理念と活動が一層推進されるようになっている。

(ちなみに、Planetary Health Annual Meeting が 2017 年から開催され多セクターから集まり解決策を模索する場となっている。また、2024 年 9 月にポツダム気候影響研究所が、地球の健康状態を評価する Planetary Health Check 報告書を発表し 9 つの地球的限界のうち 6 つが既に超過していると警告した。)

【当企画の趣旨】

これからの医療・医学において、Planetary Health の内容は、Planetary Health という語を使わなくても、間違いなく重要性を増していく。

当企画の基調講演とディスカッションを通じて、自分ごととして、Planetary Health の視座を有す医療の展開を考えたい。

プラネタリーヘルス：

臨床医学と社会医学との研究の新たな展開

Planetary Health:

New Frontiers in Research Across Clinical and Social Medicine



橋爪 真弘

東京大学大学院医学系研究科 国際保健政策学

Masahiro Hashizume

Department of Global Health Policy, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo

近年、地球規模の環境変動による人々の健康への影響が、世界各地で具体的に表れている。気候変動、生態系の劣化、環境汚染などが、人間の健康とウェルビーイングに直接的かつ重大な影響を及ぼしていることが明らかになってきており、これらの環境課題に取り組むことが健康を維持・向上させる上で不可欠である。このような背景のもと、人間の健康と自然環境との不可分な関係に焦点を当てる「プラネタリーヘルス（Planetary Health）」という新たな学術領域として確立されつつある。

本講演では、臨床医学と社会医学の観点から、プラネタリーヘルス研究の新たな展開について論じる。臨床の現場においては、気候変動や生態系変化に伴う新たな疾病パターンへの対応が求められていると同時に、医療分野で大量に使用・廃棄されるディスポーザブルプラスチック製品や、医療活動から排出される温室効果ガスも課題となっている。日本の医療分野からの温室効果ガス排出量は世界第4位に位置しており、医療提供そのものが環境に与える影響にも目を向ける必要がある。

社会医学の領域では、地域社会における環境リスクの不公平や脆弱性に着目した研究が進められている。具体的には、極端気象による健康影響、感染症の地理的拡大、環境ストレスが引き起こすメンタルヘルス問題などを取り上げ、最新の疫学研究や国際的な取り組みを紹介する。

さらに、臨床医や研究者がプラネタリーヘルスの視点を取り入れることによる意義について考察し、将来的に医療・公衆衛生が果たすべき役割を展望する。臨床医が地球規模の課題に対してどのように貢献しうるかについて、共に考える機会としたい。

The health impacts of global environmental changes have become increasingly evident worldwide. Climate change, ecosystem degradation, and environmental pollution are now recognized as exerting substantial effects on human health and well-being. Addressing these challenges is essential for maintaining and improving public health. In this context, "Planetary Health" has emerged as a new academic paradigm, highlighting the fundamental connection between human health and the natural environment.

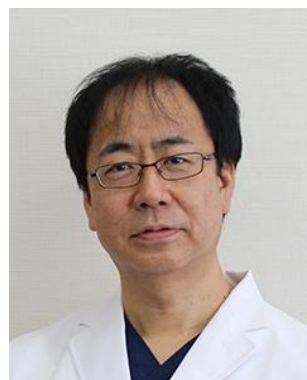
This presentation examines recent developments in Planetary Health research from clinical and social medicine perspectives. Clinically, there is a growing need to address evolving disease patterns linked to climate and ecosystem changes, alongside concerns about the healthcare sector's reliance on disposable plastics and significant greenhouse gas emissions. Japan's healthcare sector ranks fourth globally in emissions, emphasizing the need to mitigate the environmental footprint of healthcare delivery.

In social medicine, research has focused on population vulnerability to environmental risks and community-level responses. Topics include the health impacts of extreme weather events, the spread of infectious diseases, and mental health challenges associated with environmental stress, based on recent epidemiological evidence.

The presentation concludes by discussing the importance of integrating a Planetary Health perspective into clinical and public health practice and exploring the roles of healthcare professionals in addressing global environmental challenges.

「良医の条件」～プロフェッショナリズムを 実践する医師の見分け方～

“Definition of a Good Doctor” - How to identify a doctor
who engage in occupation as a doctor with “professionalism in medicine”



伊藤 公人

ひだまり内科クリニック

Masato Ito

HIDAMARI Internal Medicine Clinic

小野 宏

独立行政法人国立病院機構
熊本医療センター



西村 光滋

八雲総合病院



小野 卓哉

医療法人社団桃医会
小野内科診療所



Hiroshi Ono, MD, FACP

NHO Kumamoto Medical Center

Mitsusige Nishimura

Yakumo General Hospital

Takuya Ono

Ono Internal Medicine Clinic

昨今、医療事故やハラスメント、精神疾患患者の拘束問題など医師のプロフェッショナリズムの在り方が問われる様々な社会的問題が本邦において生じている。医師が社会から信頼され、社会において本来の役割を果たすためには、医師の質を保証する仕組みを充実させる必要がある。

今回の HPPC セッションでは、患者生命の存続に直結する「医のプロフェッショナリズム」を発揮しうるコンピテンシーを有する医師をどのように評価していくべきかを検討していきたい。基礎的事項として本邦における医師評価指標および医師評価方法の現況を概観し問題や課題の抽出を試み、さらに米国内科学会を中心とした米国における医師評価制度を俯瞰し本邦における制度と対比的に解析を試みる予定である。

さらに、ACPJC の豊潤な委員会構成や多彩な活動内容を鑑み、本邦における医師評価活動において ACPJC が一定の役割を果たしうる可能性を見出しており、医師評価指標としての FACP の位置づけや、各委員会が分担して医師を評価するシステムを構築することが可能かなどを検討していきたい。

Recently, various social problems have arisen in Japanese society that call into question the “professionalism in medicine”, such as medical accidents, academic harassment, and so on. To acquire trust from society in physicians and to fulfill primary role of physician in society, it is necessary to enhance the system to ensure the quality of physicians.

In this HPPC session, we would like to examine how physicians with competencies that can demonstrate “professionalism in medicine” which is strongly associated with patient prognosis, should be evaluated. As a basic matter, we would like to overview the current status of physician evaluation indices and methods in Japan and attempt to identify problems and issues.

We expect ACPJC to play a role in Japanese-physician evaluation activities, considering rich committee structure and diverse activities of ACPJC.

Furthermore, we would like to discuss the possibility whether FACP could be a physician evaluation indicator in this context, and whether each committee of ACPJC could evaluate physicians in its own capacity.

アンケート調査を格上げし論文化する方法

How to Enhance and Publish Questionnaire-Based Research

大前 憲史

福島県立医科大学附属病院 臨床研究教育推進部



Kenji Omae

Department of Innovative Research and Education for Clinicians and Trainees (DiRECT), Fukushima Medical University Hospital

アンケートによる調査には、簡便かつ迅速に大量のデータを収集できるという大きな利点があります。さらに、検査では測定が難しいような自覚症状や負担、生活の質、あるいは、価値観や嗜好、満足度など、自己申告に依存する情報を取得するためには必要不可欠な手法でもあります。しかし、その設計や実施にあたっては、十分に配慮しておかなければならないポイントがいくつかあります。それらのポイントを外してしまうと、得られた結果は様々なバイアスを含むこととなり、適切な解釈ができなくなって研究の信頼性は損なわれ、当然、論文採択への道も閉ざされてしまうことになります。

本講演では、質の高いアンケート調査を実施するための基本的な作業工程を概説し、アンケートを単なるデータ収集手段にとどめず、信頼性の高い科学研究へと昇華させるための実践的なポイントを、自験例も交えてわかりやすく解説します。特に、「調査目的の明確化」と「アンケート調査特有のバイアス対策」の重要性については詳しくお話しします。その中で、パイロット調査の役割やインターネット調査で問題となる satisficing 防止のため工夫、余力があれば、サンプルサイズ設計も含めた倫理審査申請時の留意点や、最近、私自身が着目する、研究テーマとしての新たな話題などについても触れられればと思います。

Questionnaire surveys offer a major advantage in their ability to rapidly and conveniently collect large amounts of data. Moreover, they are indispensable tools for capturing subjective information that is difficult to measure through objective testing, such as symptoms, burden, quality of life, values, preferences, and satisfaction. However, designing and conducting such surveys requires careful attention to several critical points. Failure to address these appropriately can introduce substantial biases into the results, undermining the reliability of the study and, inevitably, closing the path to successful publication.

In this lecture, I will provide an overview of the fundamental processes required to conduct high-quality questionnaire research, explaining practical strategies to elevate surveys from simple data collection tools to reliable scientific studies, with illustrative examples from my own research experience. Particular emphasis will be placed on the importance of clearly defining the survey objectives and addressing biases specific to questionnaire-based studies. I will also discuss the role of pilot surveys, strategies to prevent satisficing, which is particularly prevalent in internet-based surveys, and, time

permitting, key considerations when applying for ethical approval, including sample size planning. Additionally, I will touch upon some emerging topics that I have recently focused on as potential new research themes.